

やんばる国立公園における 滞在体験の魅力向上に向けた基本構想

令和7年6月

やんばる国立公園連絡協議会
環境省沖縄奄美自然環境事務所

目次

■ 序章.....	1
1. 基本構想の背景及び目的	1
(1) 基本構想の背景	1
(2) 基本構想の目的	2
2. 対象とする地域	3
3. 基本構想の位置づけ	4
4. 基本構想の検討体制	6
5. 対象地域の概要	7
(1) やんばる国立公園及び世界自然遺産の概要	7
(2) 利用の概況	7
■ 第1章 やんばる3村の魅力と課題.....	10
1. やんばる3村の魅力	10
2. やんばる3村の課題	12
■ 第2章 やんばる国立公園を中心とした滞在体験の魅力向上の目指す姿	14
■ 第3章 やんばる国立公園を中心とした滞在体験の魅力向上に向けた考え方	15
1. 滞在体験の魅力向上に向けた考え方	15
2. 取組の方向性	15
(1) 適正な利用の推進	15
(2) インタープリテーションの推進	16
(3) 自然環境の保全への再投資の仕組みづくり	17
(4) 滞在体験の魅力向上による地域づくり・地域社会への貢献.....	17
■ 第4章 面的な魅力向上に向けた利用拠点と方向性、周辺地域との連携	19
1. 面的な魅力向上に向けた利用拠点のあり方	19
2. 利用拠点の方向性とやんばる3村全体での連携	20
(1) 利用拠点の特定と方向性	20
(2) 利用拠点を核としたやんばる3村連携	23
■ 第5章 滞在体験の魅力向上に向けた推進枠組みの方向性.....	25
1. 推進枠組みの方向性	25
2. 人材育成の方針	25
3. 周辺地域との広域連携	26
■ 第6章 情報発信と地域の持続性を高める仕組みづくり.....	27
1. 効果的な情報発信・情報連携	27
(1) やんばるブランドや自然文化体験コンテンツの普及啓発.....	27
(2) 取組を持続的に推進するために効果的な情報発信の方策の検討.....	27
2. 自然環境を保全し、地域を育む利用に関するモニタリング	27
■ 第7章 今後の検討スケジュール.....	28
■ 巻末参考資料.....	29

■ 序 章

1. 基本構想の背景及び目的

(1) 基本構想の背景

環境省では、平成28年に政府が取りまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン(平成28年3月 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議)」に基づき、国立公園の保護と利用の好循環により、自然を守りつつ、地域活性化を図ることを目指し、国立公園満喫プロジェクトを推進してきました。今般、更なる展開として、国立公園の美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光を推進することとし、「宿舍事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針(令和5年6月 環境省)」(以下、「取組方針」という。)を策定しました。

取組方針に基づき、有識者等の意見も踏まえつつ政策的な観点から、令和5年8月にやんばる国立公園を含む全国4箇所の国立公園を選定し、自然体験アクティビティ等と連携した国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設を中心とした「滞在体験の魅力向上に向けた先端モデル事業」(以下、「先端モデル事業」という。)に取り組むこととしました。

やんばる国立公園の選定のポイントは、「世界自然遺産登録地域周辺における自然を活用した地域活性化」です。

やんばる国立公園は、平成28年9月に国立公園に指定され、令和3年7月には「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」世界自然遺産に登録されました。

世界遺産登録に際して、世界自然遺産の適切な観光管理の実現に向け、沖縄島北部部会において「沖縄島北部における持続的観光マスタープラン(令和2年2月策定、令和6年3月改定 沖縄島北部部会)」(以下、「マスタープラン」という。)を策定し、基本的な考え方を整理しました。

沖縄島北部における持続的観光の基本的考え方 (「沖縄島北部における持続的観光マスタープラン」より抜粋)

【目 標】

持続的観光に対する地域の理解醸成と受入体制づくりを通じて観光を沖縄島北部の自然環境と地域の歴史文化・経済・社会を支える総合産業に育てる

【基本的考え方】

- その1: 来訪者の周辺管理地域への誘導と受入体制の強化
- その2: 遺産地域及び緩衝地帯における観光利用の影響最小化
- その3: 持続的観光を地域の持続的発展へ活用

【基本方針】

- 方針1: 地域住民への持続的観光への理解醸成
- 方針2: 世界自然遺産登録が地域経済の持続的発展・地域社会の課題解決へ寄与する仕組みづくり
- 方針3: 遺産地域や緩衝地帯での適切な来訪者管理の実現
- 方針4: 周辺管理地域を中心とした観光と3村周遊への計画的誘導
- 方針5: 持続的観光の推進を担う人材育成や組織(観光協会等)の運営能力・観光管理能力の強化

やんばる国立公園が所在する国頭村・大宜味村・東村(以下、「やんばる3村」という。)においては、少子高齢化・人口減少や経済活動の低迷が地域課題となっており、マスタープランを踏まえて持続可能な責任ある観光の実現に向けた具体的な取組を実践し、持続可能な地域社会づくりにつなげることが必要です。

(2) 基本構想の目的

現在、やんばる3村では、コロナ禍からの回復を経て、移動ルートの拡大や観光客の増加、周辺地域における大規模テーマパークの事業計画など、観光動向に変化が生じています。

このような状況を踏まえ、先端モデル事業において、「世界自然遺産登録地域周辺における自然を活用した地域活性化」に向けた持続可能な責任ある観光の実現を目指し、やんばる国立公園の利用の高付加価値化に取り組むこととしました。

利用の高付加価値化にあたっては、宿泊施設を拠点とする自然体験アクティビティ等と連携した、やんばる国立公園ならではの感動と学びの体験の提供を中心とした面的な滞在体験の魅力向上に取り組むこととし、その取組に向けた考え方を「やんばる国立公園における滞在体験の魅力向上に向けた基本構想(以下、「基本構想」という。)」として取りまとめました。

取組方針においては、「国立公園の利用の高付加価値化」を次のとおり定義しています。

国立公園の利用の高付加価値化とは

国立公園の利用の高付加価値化とは、単に富裕層を対象として高額で豪華な宿泊施設やサービスを提供することを意味するものではなく、次の①及び②を付加価値として高めることを意味するものと定義する。

- ①国立公園の魅力的な自然環境を基盤とし、その土地の生活・文化・歴史を踏まえた、本物の価値に基づく感動や学びの体験を提供し、利用者に自己の内面の変化を起こす。
- ②関係者が、持続可能で責任ある観光の姿勢を共有し、保護と利用の好循環を目指す。

2. 対象とする地域

本基本構想では、やんばる国立公園全域を含む「やんばる3村」全域を対象地域とします。

この理由は、世界自然遺産の包括的管理計画において、地域の文化・産業の振興等を含めた持続可能な観光利用の促進等の取組を地域社会との協働のもと実施する地域として「周辺管理地域」(外来種対策や希少種の違法採集対策など資産の保護上必要とされる広域的な取組を行う地域として、登録区域及び緩衝地帯を取り囲む地域)と位置付けている“やんばる3村の行政区全体”についても、対象地域に含めることで、滞在体験魅力向上の取組の面的な連携を進めるためです。

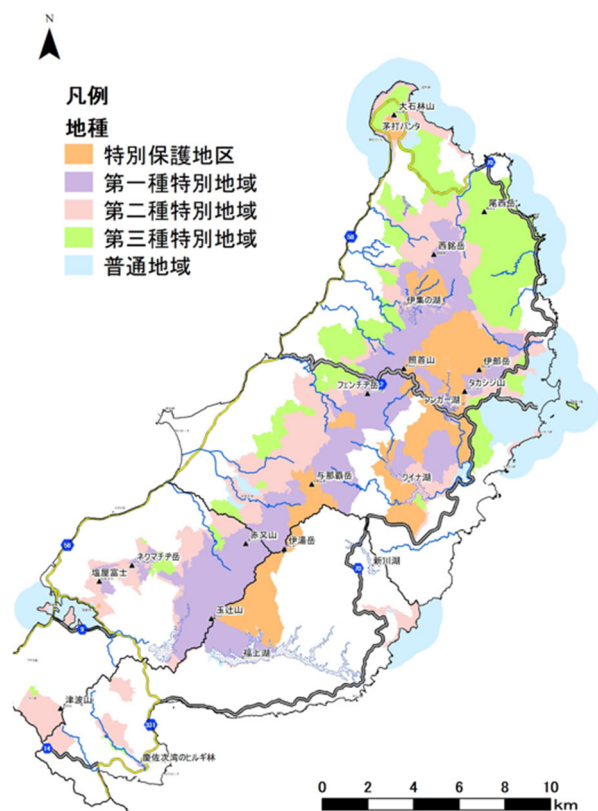
■広域図（沖縄本島内での対象地域位置図）



■対象地域（やんばる3村）

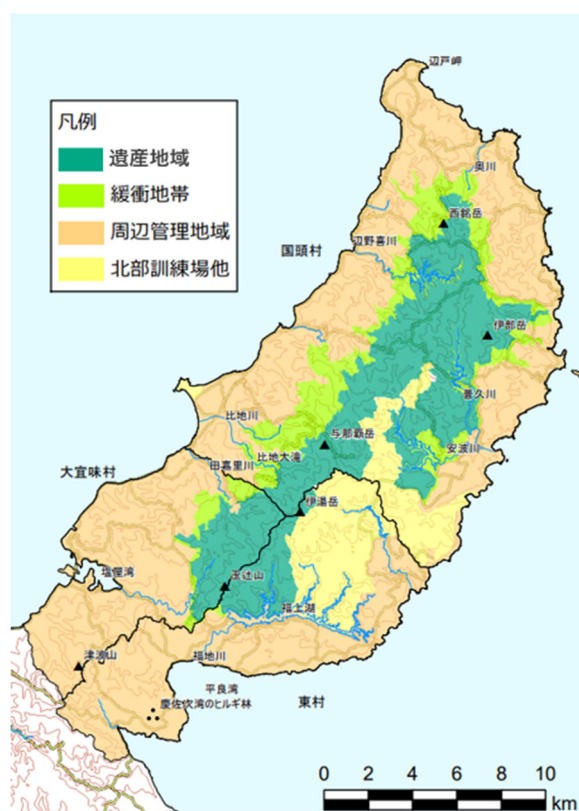


■やんばる国立公園



出典：環境省、国土地理院ホームページ

■世界遺産地域



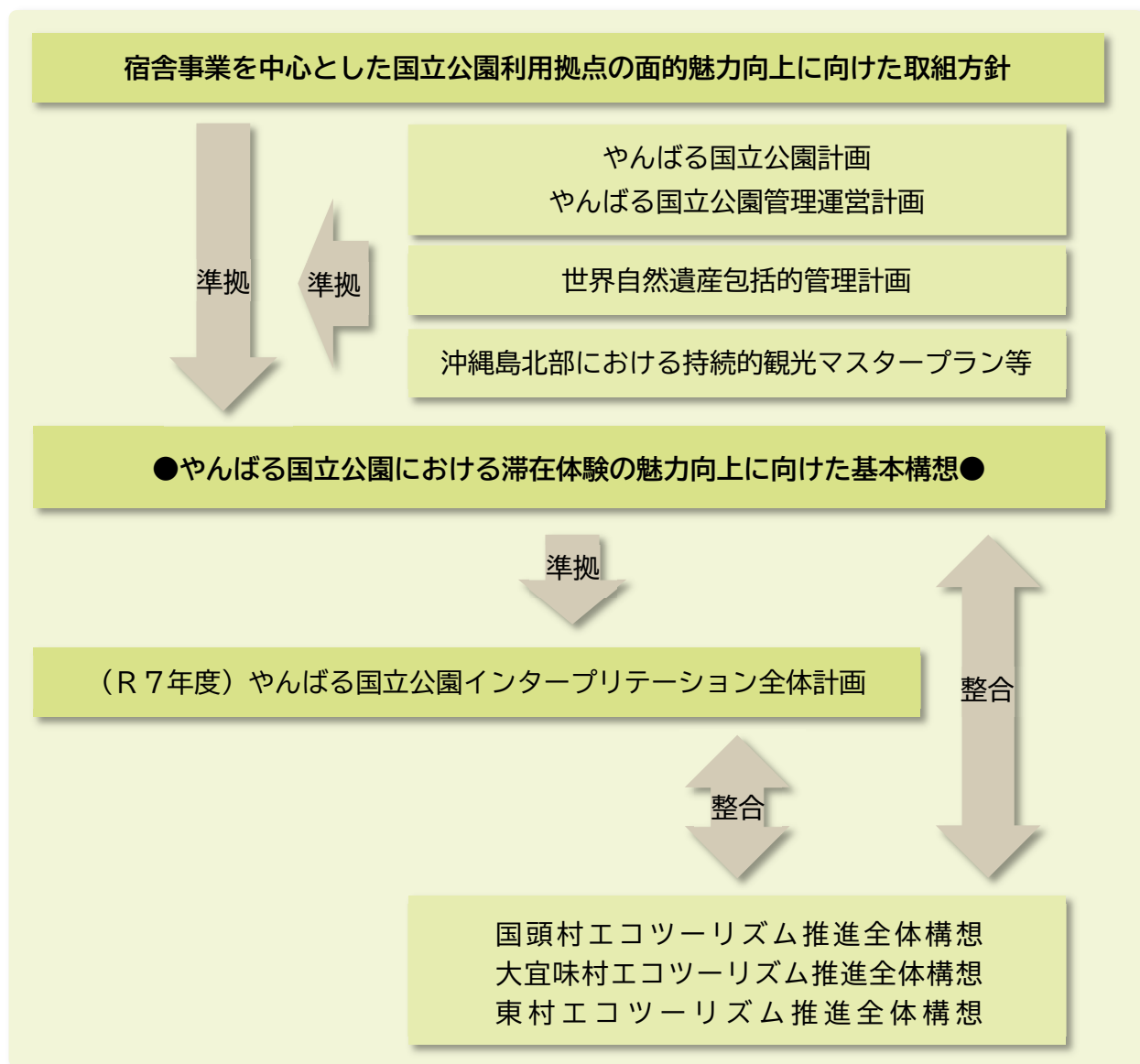
3. 基本構想の位置づけ

本基本構想は、取組方針を踏まえ、「やんばる国立公園連絡協議会(以下、「連絡協議会」という。)」及び環境省沖縄奄美自然環境事務所が策定したものです。

やんばる国立公園の公園計画及び管理運営計画、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」世界自然遺産の包括的管理計画、マスタープラン等の関連計画を踏まえて策定しており、状況変化等を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

また、やんばる3村ではそれぞれにおいて、「エコツーリズム推進全体構想」策定に向けた取組が進んでおり、本基本構想の具体的な実践に向けて、本基本構想及び今後策定予定のインタープリテーション全体計画との整合を図り、関係機関との綿密な連携と取組、実践を図ります。

■本基本構想の位置付け



4. 基本構想の検討体制

本基本構想の検討にあたっては、やんばる3村等からなる連絡協議会及び、「やんばる国立公園連絡協議会作業部会（以下、「作業部会」という。）」において検討を行うとともに、地域関係者及び住民等を対象とした地域ワークショップや住民説明会等を開催し、その結果も本基本構想に反映しました。

また、より実効性のある取組とするため、地域内外の幅広い業種の民間事業者等へのヒアリング（16者）も行い、それら事業者からの意見や提案も本基本構想に取り入れています。

■検討フロー

			令和6年						令和7年			
			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降
基本構想（案）			目次・骨子検討		目指す姿検討		取組方針検討		取りまとめ			
会議等	連絡協議会	・全体検討を総括 ・基本構想（案）を確認										第2回 【未定】
	作業部会	・基本構想（案）を具体的に検討	第1回 7/2		第2回 9/5		第3回 11/6			第4回 2/7		
	地域ワークショップ	・地域住民・地域活動団体の対話の場 ・基本構想の重要テーマに対する思い・考えを共有、意見交換		第1回 8/5		第2回 10/2			第3回 1/29			
	住民説明会	・基本構想（案）を説明、意見交換									●3/10大宜味村 ●3/11国頭村 ●3/12東村	
民間事業者ヒアリング	民間事業者提案・意見交換	・地域内外の民間事業者から高付加価値化に向けた提案を募集										

※連絡協議会について、第1回は令和6年2月28日に開催したため、上記フロー図では第2回のみ記載している

5. 対象地域の概要

(1) やんばる国立公園及び世界自然遺産の概要

沖縄島北部に位置するやんばる3村は、琉球列島の形成過程を反映して形成された地史を背景に、多種多様な固有種が集中して分布しています。この地域には国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がり、その生態系が特徴です。また、高温度の山地には雲霧林が発達し、溪流植物群落などの河川生態系も見られます。さらに、石灰岩地特有の動植物やマングローブ生態系も存在し、多様な生態系が複合的に一体となった自然環境を形成しています。やんばる3村は、このように多様で特有な生態系を有する自然豊かな地域です。

これらが評価され、やんばる国立公園は平成28年9月15日に33番目の国立公園として指定されました。また、世界の生物多様性ホットスポットの一つである日本の中でも生物多様性が突出して高い地域である中琉球、南琉球を最も代表する区域であり、多くの固有種や絶滅危惧種を含む独特な陸生生物にとって世界的にも重要な地域であり、生物多様性の生息域内保全においてかけがえのない地域であることから、「生物多様性」の評価基準を満たしているとして、やんばる国立公園の一部を含む「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は、令和3年7月26日に、日本で5番目の世界自然遺産として登録されました。

さらに、豊かな自然環境の中での日々の暮らしで育まれてきた伝統的なやんばるらしさ(対象地域独自の個性)が息づく人文景観も特長です。やんばる3村では、このような亜熱帯の大自然を舞台に、景勝地めぐり、亜熱帯照葉樹林の散策、カヌー、川遊び、キャンプ、海水浴などの様々な利用がなされています。また、やんばる3村の自然観察を目的とした利用も行われており、訪れる利用者へ良質な自然とのふれあいの場・機会を提供しています。

(2) 利用の概況

①やんばる3村の利用の概況

やんばる3村及び周辺の自治体への観光入込客の動向について、新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度の沖縄県への入域観光客における「やんばる(最北部)への訪問率は6.7%、観光入込客数は約63.4万人(推定)でしたが、令和3年の世界自然遺産登録を経て、令和5年度には訪問率は10.2%に増加しており、年間約87.0万人がやんばる(最北部)を訪れたと推定されます(参考資料1-⑤参照)。世界自然遺産登録前後における人流を比較すると(令和元年および令和4年の比較)、登録後においては東海岸側へも移動・訪問する傾向が確認されます(参考資料1-⑧参照)。

GPS 位置情報データをもとに集計している OCVB「おきなわ観光地域カルテ(参考資料1参照)」によると令和6年の沖縄県内からの来訪者も含むやんばる3村への来訪者は約284万人であり、来訪者の属性として、沖縄県内からの来訪者が約8割と多く東京都・神奈川県・大阪府の大都市圏がそれに続いています。男性では40代、女性では50、60代が多く来訪しています(参考資料1-③、1-④参照)。

また、令和6年にやんばる3村を訪れた観光客に対して4日間(夏・秋のそれぞれ休日2日間ずつ)実施した「やんばる国立公園利用実態アンケート調査(参考資料2参照)」では、やんばる3村への観光客は、沖縄県内からが約2割、沖縄県外からの訪問は約7割で東京都・神奈川県・愛知県・大阪府などの大都市圏からの来訪者が多数を占めます。その他、国外からの観光客もみられ、台湾をはじめ、北米・ヨーロッパ・アジアなど、様々な国から訪れています。年代では、30～50代が多く、夫婦・カップ

ル又は家族旅行のような少人数での旅行が一般的と推測されます(参考資料2-②参照)。なお、OCVB による「おきなわ観光地域カルテ」は位置情報による年間を通じた傾向、「やんばる国立公園利用実態アンケート調査」はやんばる3村内の施設に調査員を配置したアンケート調査と、計測方法や集計期間が異なるため、来訪者の属性について一概に比較はできないものとなっています。

やんばる国立公園及びその周辺の利用実態としては、辺戸岬(国頭村)やター滝(大宜味村)、ふれあいヒルギ公園(東村)などの自然・景勝地への訪問、環境教育センターやんばる学びの森(国頭村)やヤンバルクイナ生態展示学習施設(国頭村)等の自然学習施設、やんばるの森ビジターセンター(大宜味村)や道の駅ゆいゆい国頭(国頭村)などの休憩・情報発信施設への訪問者数が比較的多くなっています(参考資料2-③参照)。

利用目的としては、「自然・景勝地への訪問」や「ドライブ・ツーリング」、「登山・トレッキング・ハイキング」、「海遊び」等を目的としている訪問者が多い傾向にあります(参考資料2-④参照)。

■各地域の利用例



地 域	利 用 例
脊梁山地	動植物の観察、登山・トレッキング・ハイキング、川遊び、カヌー、カヤック、ナイトツアー、環境教育の場としての利用等
慶佐次周辺	動植物の観察、カヌー、カヤック、トレッキング 等
東部沿岸	海水浴、スノーケリング、漁業体験 等
辺戸岬周辺	カルスト地形・石灰岩地植生などの自然観察、トレッキング、釣り、ドライブ 等
塩屋湾周辺	サバニ体験、カヌー、カヤック、サイクリング、ランニング 等



▲動植物の観察



▲カヌー



▲サバニ体験

出典：やんばる自然保護官事務所、環境省ホームページ、NP0 法人おおぎみまるとツーリズムホームページ

宿泊においては、日帰りで訪れる方が多く、宿泊する場合はやんばる3村以外に宿泊する方が多いことが推測されます(参考資料2—⑤)。

②沖縄北部圏域の利用の概況

やんばる3村が属する沖縄北部圏域は、1市2町9村の12市町村で構成されています(やんばる3村の他、名護市、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村)。本部半島には、県内で最も多くの観光客が訪れる沖縄美ら海水族館を有する「海洋博公園」(国営沖縄記念公園海洋博覧会地区)をはじめとする観光施設があるほか、恩納村等の北部西海岸地域では多くのリゾートホテルが立地し、沖縄県を代表する観光地が形成されています。

近年では、国際旅客拠点形成港湾に指定された本部港クルーズバースの整備により大型クルーズ船が寄港可能となり、また、令和7年夏に開業予定の民間企業による大規模テーマパーク事業の計画が進められています。

■ 第1章 やんばる3村の魅力と課題

1. やんばる3村の魅力

地域ワークショップや作業部会での議論を通じて、やんばる3村の魅力を5つのテーマで整理しました。

■自然の魅力

やんばるの森の生物多様性の高さとそれを育んだ独自の自然環境

国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がるやんばる3村には、希少種を含む多種多様な生物が生息・生育しています。その唯一無二の生物多様性は、多様な自然が一体となった独自の自然環境によって支えられています。また、自然と人との距離が近いことから、生息・生育している多様な生物に出会うことができ、夜には、それら生物の鳴き声を聴きながら美しい星空を楽しむこともできます。



▲やんばるの森



▲ヤンバルクイナ

出典：環境省やんばる野生生物保護センター ウフギー自然館ホームページ

■地域文化の魅力

地域の絆の中で受け継がれてきた自然と共生した文化、景観とそれを守ってきた人々

自然と共生しながら自然の恵みを皆で分かち合ってきた地域の人々は強い絆で結ばれています。その地域の絆の中で受け継がれてきた、自然と共生した文化、シヌグや海神(ウンジャミ・ウンガミ)祭など集落の伝統行事、芭蕉布などの伝統工芸、長寿の里としての長寿食等の食文化などが多く残されています。また、集落は河川に沿った海岸部に形成され、集落を中心として耕地、里山林、源流部が広がっている伝統的な景観が残されています。



▲伝統行事（安田シヌグ）の様子



▲伝統行事（塩屋湾のウンガミ）の様子

出典：環境省ホームページ、大宜味村提供資料

■暮らしの魅力

自然と共生する豊かな暮らしと、人との繋がりを感じられる集落の暮らし

やんばる3村には、自然と普段の暮らしが近い環境にあることから、自然と共生する豊かな生活があります。また、人と人との距離が近く、人との繋がりを感じられる温かさのある集落の暮らしも魅力の一つで、地域の子どもたちは地域に育てられながら自然、文化、産業を学び成長しています。



▲集落の様子



▲集落の様子

出典：やんばる自然保護官事務所

■産業の魅力

自然と共生し、保全しながら活用してきた産業

やんばる3村には、自然と共生する持続可能な産業が根付いています。やんばるの森は琉球王国時代から木材の供給地として重要な役割を果たしており、林業は古くから地元経済を支えてきました。やんばる3村特有の自然を活かした農業も営まれており、地域を代表する農作物が生産されています。



▲地域を代表する農作物（シークワサー）



▲地域を代表する農作物（パイナップル）

出典：環境省やんばる野生生物保護センター ウフギー自然館ホームページ

■観光・滞在の魅力

やんばる3村ならではの自然や文化に触れ、地域で育まれてきた価値観を学ぶ、この地域ならではの本物の体験

短時間の通過型の観光ではなく、付加価値を上げることで滞在時間を延ばし、やんばる3村ならではの自然や文化に触れ、地域の人々と交流し、地域で育まれてきた価値観を学ぶことにより、来訪者はこの地域でしか出会えない本物の体験をすることができます。やんばる3村では、自然に触れられる体験型プログラムや環境教育プログラム、地域の文化や食を楽しめるプログラムも多数提供されており、来訪者はこれらに参加することにより自然環境や地域への理解を深めることができます。

また、地域全体が自然と文化の学びの場となっているため、ゆっくりと過ごすだけでも、集落の近くに生息する多様な生物との遭遇など、やんばる3村の魅力を身近に感じることができます。



▲自然体験（マングローブカヌー）



▲文化体験（エイサー、獅子舞演舞）

出典：やんばる自然保護官事務所、NPO 法人おおぎみまるとツーリズム協会ホームページ

2. やんばる3村の課題

地域ワークショップや作業部会での議論を通じて、やんばる3村の課題を4つのテーマで整理しました。

■環境保全に関する課題

自然環境の保全に向けた地域の共通理解の形成が不十分で、来訪者に対しても協力を促す取組も必要

豊かな自然を魅力とするやんばる3村ですが、希少種の保護、外来生物や盗掘・密猟への対策、水質の改善、脱炭素化、SDGsへの取組などが課題です。環境保全に向けた地域の共通理解形成が不十分であり、また、地域住民だけではなく、来訪者に対しても適切に周知し、理解や参画を促す必要があります。

■地域と暮らしに関する課題

地域に対する愛情や興味・関心の希薄化に加え、集落の活気が低下しているため、地域の魅力を再認識し地域を愛する気持ちを育み、地域の賑わいを取り戻すことが望まれる

若い世代の地域に対する愛情や興味・関心が薄れてきていることが課題です。また、集落の人口減少・少子高齢化により集落の活気が低下してきています。地域住民が地域の魅力を再認識し、地域を愛する気持ちを育成することで、地域への定住や地域行事への参加促進等に繋がり、地域の賑わいを取り戻すことが望めます。

■観光に関する課題

地域全体として来訪者の受入体制がハード・ソフトともに十分に整備されておらず、また、利用の恩恵を自然環境や地域社会が享受できる仕組みづくりも不十分

豊かな自然環境の保全と地域住民の生活環境維持を将来にわたって実現していくためには、やんばる3村の地域資源を適正に利用する仕組みづくりが必要です。しかしながら、地域全体での適正な利用に関する共通認識やルールが十分に整備されておらず、来訪者の受け入れによる自然環境や生活環境の悪化が課題となっています。

また、宿泊施設や交通インフラ等のハード環境、地域案内や緊急時対応等のソフト環境の受入れ体制も十分に整備されているとはいえ、今後、来訪者が増加するとオーバーツーリズムが発生する懸念があります。

加えて、適切な利用を受け入れる体制だけではなく、自然環境や地域社会が利用の恩恵を享受できる仕組みづくりも不十分です。地域の観光利用が環境保全の促進や地域の活性化・雇用促進等に繋がっていないことが課題です。

■人材確保・育成に関する課題

人口減少・少子高齢化により地域の人材が不足しており、また、来訪者にやんばる3村の魅力を十分に伝えられる人材育成が必要

やんばる3村においては、人口減少・少子高齢化が進んでいます。自然や地域に関心のある若い世代も見られるものの、環境保全に向けた取組や来訪者のニーズに応じた受入体制(ガイド、宿泊、その他のサービス提供)等を担う地域の人材が不足しています。

また、来訪者へやんばる3村らしさを伝える取組が不足しており、地域一丸となりやんばる3村の魅力を十分に伝えられる人材の確保や育成も望まれます。

■ 第2章 やんばる国立公園を中心とした滞在体験の魅力向上の目指す姿

やんばる3村は、世界遺産に登録された奥山を中心として林齢50年以上の森林が広く分布し、集落が河川に沿った海岸部に形成され、集落を中心として耕地、里山林、源流部が続く独自の風景を有しています。

世界的にも希少な亜熱帯常緑広葉樹林は、やんばる国立公園の多くの固有種の住みかとなり、生物多様性の高さを支える基盤となっています。そのような自然環境は、地域の人々が山と海を一つの空間としてとらえ、そこから自然の恵みを受けていると考える自然観や信仰を育み、現在に至るまで、自然環境に根差した文化が色濃く残っています。

一方で、人口減少・少子高齢化や地域の慣習、ルールを知らない観光客の増加等による課題も生じてきており、時代の流れの中で、今までのやんばる3村の自然環境の適切な保全や自然と密接に関わった暮らしを続けることが難しくなっています。

そのような中で、やんばる3村ならではの魅力を地域関係者が共有し、自然環境の保全や地域社会に還元するような形で利用のあり方を、地域から来訪者に向けて情報発信していくことが重要になります。

地域関係者の思いを共有し、それぞれの取組を進めていくために、やんばる3村における滞在体験の魅力向上として、地域が「目指す姿」を掲げます。

—やんばる3村の魅力向上を通じて目指すべき姿—

人と自然 多様な生命を紡ぎ・育み、 風の人¹と共に歩むやんばる

やんばる3村は、独自の自然環境と多くの固有種を含む生物多様性を有しており、山と海が人々の暮らしと密接につながって、人と自然が共生する歴史や文化を形成してきました。この暮らしの風景が、今日まで続くやんばる3村の根幹です。

この生物多様性等が評価され、国立公園への指定や世界自然遺産に登録されており、近年では国外や県外からの来訪者も増えてきていますが、固有の自然環境や人々の繋がりは地域において守っていかなければならない重要なやんばるの魅力です。

この先も地域の自然や人々の暮らしを守り、次の世代につないでいくために、地域としての魅力を誇りと感じられることや、地域を訪れる方にも、地域の魅力を理解し尊重する協力者となってもらい、ともにやんばる3村の暮らしを支えていくことが重要であり、そのために、持続的にやんばるの自然環境を守り、伝統・文化を継承していく仕組みを作る必要があります。

やんばる3村がこの先も、人と自然が紡いできたやんばるの魅力を継承し、地域の皆（土の人）で助け合い、来訪者（風の人）とも協働しながら、共に歩み続けられる持続可能な地域となることを目指します。

1 オギュスタン・ペルク(フランスの地理学者、東洋学者、思想家)の『風土の日本』や和辻哲郎(日本の倫理学者、哲学者)による『風土論』になぞらえて、外から関わる人を「風」に、その土地に根づく人を「土」にたとえた地域づくり等の側面において用いられる言葉。

■ 第3章 やんばる国立公園を中心とした滞在体験の魅力向上に向けた考え方

1. 滞在体験の魅力向上に向けた考え方

第2章にて取りまとめた、目指す姿『人と自然 多様な生命を紡ぎ・育み、風の人と共に歩む未来を目指す やんばる』を実現するためには、まず、地域に暮らし、活動する方々がやんばる3村の価値は何か、その価値を大切に守り魅力的に磨き上げるためには必要な取組について共通認識を図り、やんばる3村が足並みを揃えた活動を展開することが肝要です。そのうえで、地域の考え方や取組の必要性を来訪者と共有し、協力を求めていくことが必要です。

その第1歩として、本章では、地域として大切にしたい考え方と、その考え方を実現するための取組の方向性を次のとおり整理します。

滞在体験の魅力向上に向けて大切にしたい考え方	考え方を実現するための取組の方向性
① 地域の資源を守りつつ持続可能な形で利用する仕組みをつくる	▶ 適正な利用の推進
② 地域が大切にしているやんばる3村の魅力を来訪者に伝える	▶ インタープリテーションの推進
③ やんばる3村の財産である自然環境の保全に還元する	▶ 自然環境の保全への再投資の仕組みづくり
④ 地域の課題解決に貢献する	▶ 滞在体験の魅力向上による地域づくり・地域社会への貢献

2. 取組の方向性

(1) 適正な利用の推進

基本構想の対象地域における滞在体験の魅力向上に向けて、自然環境の保全や地域社会への影響に配慮し、やんばる3村の価値や魅力を踏まえた適正な利用を推進する必要があります。

世界自然遺産包括的管理計画では、次のように観光利用の方針を設定しています。

【遺産地域】

遺産価値への影響を最小化するため、必要に応じて適正利用に向けたルールや制限を設定し来訪者の入込みを抑制・制限するなど、適切な利用コントロールを行いつつ、より深い自然体験を促進する。利用するための施設整備については、利用による環境負荷の低減や利用に必要な情報の提供等のための必要最小限の整備に留める。

【緩衝地帯】

来訪者に地域固有の自然との出会いや生物多様性の豊かさに触れる機会を提供するため、一定量の自然体験型観光の受入れを可能にするとともに、同時に、遺産地域への来訪者の入込みを抑制・制御するコントロール機能を確保するなど、遺産地域への影響に配慮した利用を促進する。また、遺産地域及び緩衝地帯の利用者への利用のルールの周知、インタープリテーションなどを行うエコツーリズムの拠点の整備を進める。

【周辺管理地域】

観光に伴う地域への影響や収容力を勘案したうえで、多人数の周遊観光の受入を想定する。遺産地域の価値、区域、エコツーリズムへの参加、利用ルールなど、訪問者が遺産地域や緩衝地帯に関わる情報を入手できる施設等の整備・機能強化を進める。また、集落なども含まれることから、住民生活に配慮したうえで、集落散策、歴史文化体験、地域産品などを組み込んだ観光を推進し、文化の継承、地域社会の活性化と持続的な発展に貢献する。

やんばる3村においては、「やんばる3村ルールブック(平成30年初版発行・令和3年3月改定 やんばる3村世界自然遺産推進協議会(国頭村/大宜味村/東村役場))」として、やんばるの森をはじめとした地域の魅力を多くの方々に感じてもらうため、自然環境の保全と適正な利用の推進を目的とした統一のルールが定められています。ただし、それが地域において十分に周知されていないことが課題です。このため、エコツーリズム推進全体構想の検討状況等も踏まえつつ、必要に応じてルールの見直しを検討し、周知・徹底を図る方策も検討します。

さらに、「やんばる森林ツーリズム推進全体構想(平成31年3月 やんばる3村世界自然遺産推進協議会)」を踏まえて、各村において検討中のエコツーリズム推進全体構想の中で、必要に応じて、利用する場所ごとにそれぞれの特性を踏まえた個別の「利用のルール」の検討を進めます。

(2) インタープリテーションの推進

やんばる3村の魅力は一見しただけでは伝わらない部分も多く、やんばる3村における滞在体験をより魅力的なものとするためには、個々人がそれぞれに自然や文化を味わうだけではわからない、やんばる3村の背景にある自然・文化・歴史に関するストーリーを知ることが重要です。そのためには地域のストーリーを地域内で共有するとともに、来訪者にそれらを伝え、共感を得ることが必要です。

そこで、今後、やんばる3村における滞在体験の魅力向上に向けて、地域の様々な関係者が幅広く参加して、インタープリテーション全体計画の策定を計画しています。

「インタープリテーション」とは、地域の自然・歴史・文化・社会等が持つ固有の価値や魅力について、来訪者と共有することで、来訪者と地域との間に特別なつながりを生み出すコミュニケーション手法のひとつです。

今後、インタープリテーション全体計画として、やんばる3村ならではの価値や魅力、地域資源とストーリー(物語)、伝えたいメッセージ、来訪者像、来訪者に望まれる体験、推進するアクティビティ等を整理し、関係者が共有するメッセージブックとして発信することで、地域一体となって滞在体験の魅力向上に取り組むことを目指します。

インタープリテーション全体計画を策定することで、地域が何を守り伝えたいかのよりどころとなり、施設整備や利用ルールづくり等、ハード・ソフト両面での地域が目指す利用推進のあり方の指針となります。

また、インタープリテーションの実践にあたっては、地域の人材育成が重要です。また、ガイド等の能力向上・育成等を行い、受け入れ体制を充実することも必要です。

来訪者にやんばる3村の価値を伝える役割(インタープリテーションの実践)は、直接来訪者を案内するガイドや旅行会社だけではなく、来訪者が利用する宿泊施設や飲食店、共同売店等の地域の商店、集落

ですれ違い挨拶を交わす地域の方々等も担えるものです。インタープリテーション全体計画(メッセージブック)を活用し、地域の方々がそれぞれの立場から来訪者に地域の魅力を伝えられる取組を目指します。

さらには、インタープリテーションの実践と合わせて地域内外の人々を対象とする自然・文化学習機会の提供、学校教育の場の活用等についても強化します。

(3) 自然環境の保全への再投資の仕組みづくり

自然環境や地域社会にとって持続可能で責任ある形での利用の取組を進めるためには、体験の土台である自然環境保全や環境整備、それらを担い適正に利用する取組を行う人々に再投資し、包括的に自然環境を守る仕組みづくりが必要です。そのため、来訪者の行動による直接的な自然環境保全への寄与だけでなく、来訪者や事業者から得た体験提供の対価を地域全体で享受できる仕組みを検討し、国立公園を中心としたやんばる3村の貴重な自然環境の保護と利用が好循環を生むための仕組みづくりを目指します。

例えば、限定的な利用を設定したエリア等において利用料を徴収し保全活動に活用する、やんばる3村内のアクティビティ体験料や宿泊料の一部を地域環境整備やガイド等を始めとした地域活性化に必要な人々の育成のために還元する、方向性を具体的に定めた事業を計画することで賛同者からの資金調達を行い、コンテンツ提供を行うなどが想定されます。

集落による地域資源の維持管理等、各村内のコミュニティによる小さな取組に対しても支援行うことが重要であり、地域との対話を丁寧に実施しながら持続的にやんばる3村の魅力を高める仕組みを検討します。



(4) 滞在体験の魅力向上による地域づくり・地域社会への貢献

「滞在体験の魅力向上」を単なる観光に関する目標ではなく持続可能な地域づくりの手段と捉え、当該取組をやんばる3村の地域社会の持続的な発展へとつなげることを目指します。

やんばる3村では、地域固有の自然の魅力が地域文化の魅力を生み、地域文化の持続・発展が暮らしの魅力を生み出し、さらにその効果が産業の魅力へとつながるなど、多様な魅力の相乗効果により地域独自の魅力が形成され、発展してきた背景があります。このような地域の成り立ちを踏まえ、さらにより良い地域社会の構築に滞在体験の魅力向上が寄与できるよう取り組みます。

具体的な地域づくり・地域社会への貢献イメージは以下のとおりです。

- 各地域で進める個別の取組に加え、共通して取り組むべき事項については「やんばる3村」としての面的な取組の推進を図る
- やんばる3村の貴重な自然や集落の暮らしの保全、地域の社会・歴史の継承を図る
- やんばる3村の地域の魅力を再認識し、地域への愛着や誇りの醸成を図る
- 自然保護・観光管理を生業として確立させ、地域における働く場所の確保を図る
- 農業・漁業などの多様な地域内産業の活性化に寄与し、就業者増加、移住者の増加の促進を図る
- 地域の人々がインタープリター(やんばるの自然や環境についての知識を持ち、それを人々に伝える役割)として参画することで、生きがいにつながる多様な主体が協働した地域づくりの構築を図る
- 交流人口・関係人口の創出・拡大につなげ、集落の活気や賑わいの向上、伝統的な催事の継続や住環境の維持を図る
- 来訪者の滞在時間増加や体験の質の向上により、域内消費額の拡大を図る
- 滞在体験に際し、地域の一次産品の提供や特産品販売等により地域の産業振興を図る
- やんばる3村全体の「地域ブランド力」の向上を図る
- 滞在体験の満足度向上によりやんばる3村のファンやリピーターを増やし、地域ブランドの普及啓発を図る
- 来訪者や来訪者に限らないやんばる3村のファン等の SNS 活用により、情報発信手段の拡大を図る
- 災害対策や緊急医療に対応する危機管理体制の構築を図る
- 地域内経済の発展により、地域内のインフラ整備等の適切な環境整備の推進を図る など

■ 第4章 面的な魅力向上に向けた利用拠点と方向性、周辺地域との連携

1. 面的な魅力向上に向けた利用拠点のあり方

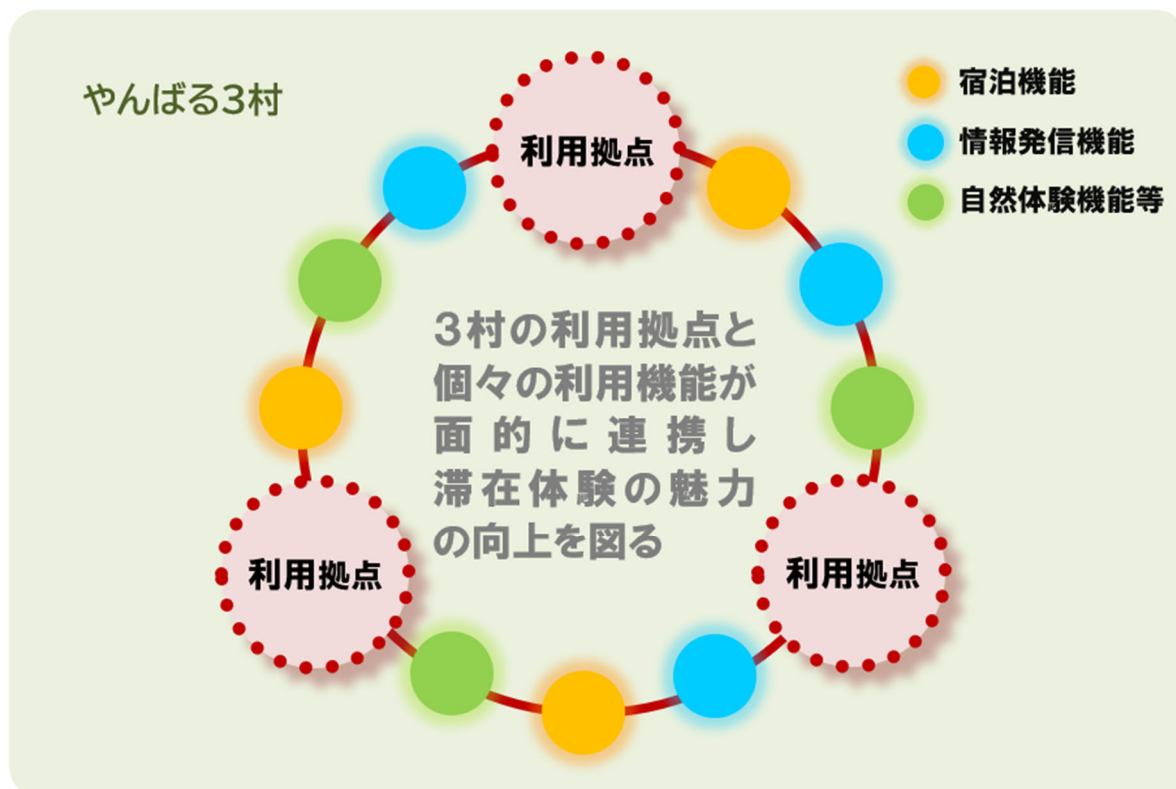
やんばる国立公園内には、他の国立公園に見られるような面的な広がりを持った大規模な利用拠点(快適な公園利用の拠点として、宿泊施設、ビジターセンター、休憩所等の、国立公園の利用及び管理のための施設を総合的に整備した場所)は存在しません。また、自然環境や地域社会の現状からして、大規模な開発を伴うような利用拠点を新たに設置することは現実的ではありません。

そのため、やんばる3村が一体となった滞在体験の魅力向上に向けて、地域の文化や自然環境の多様性に配慮し、各村に1ヵ所ずつ宿泊機能を中心とした利用拠点を設定します。また、既存の点的に存在する利用機能(宿泊機能・情報発信機能・自然体験機能等)が互いに連携することで、やんばる3村ならではの感動体験の提供に必要な各種機能をパッケージとして利用者に提供し、長期滞在を推進することを目指します。

やんばる3村には、第1章で示したように、自然、地域文化、暮らし、産業、観光・滞在等の多様な魅力があり、その地域に滞在することでしか味わえない魅力があります。滞在体験の魅力向上に向けて、宿泊機能を中心とした利用拠点と、既存の利用機能等が相互に連携することによって、面的な滞在体験の魅力向上を進めることが可能となります。このような考え方のもと、次年度以降、滞在型・高付加価値観光促進に向けた具体的な取組を推進していきます。

また、宿泊機能を中心とした3つの利用拠点については、必要に応じて、宿泊機能の魅力を向上させるため、新たな宿泊施設の誘致や既存の宿泊施設の見直し等に取り組みます。

■ やんばる3村の3つの利用拠点と個々の利用機能との連携イメージ



2 利用拠点の方向性とやんばる3村全体での連携

(1) 利用拠点の特定と方向性

やんばる国立公園ならではの魅力を味わう滞在を提供し、3村全域での面的な連携を促進するため、各村に利用拠点を設定し、それぞれの利用拠点単独で魅力的な滞在体験を完結するのではなく、他の利用拠点や地域内の利用機能と連携することで、地域としての滞在体験の魅力の向上を実現します。

そこで、まずはやんばる3村の中央部東側の世界遺産の緩衝地帯に位置しており、利用者が少ない東海岸側への誘引や南北への波及効果が期待され、取組着手が可能な状況にある国頭村の利用拠点「環境教育センターやんばる学びの森」において、令和7年度に利用拠点マスタープラン(利活用計画)を策定し、宿泊施設等の誘致に向けた検討に着手します。合わせて、「環境教育センターやんばる学びの森」と他の利用拠点との連携による相乗効果創出等に向けた検討を行います。

3村それぞれに設定する利用拠点の概要と方向性は以下のとおりです。

■国頭村：環境教育センターやんばる学びの森

①概 要

世界自然遺産の緩衝地帯の中に位置し、周辺は亜熱帯照葉樹林に囲まれ、希少な野生動植物に出会うことができ、やんばるの森の豊かさを感じられる場所として、やんばる国立公園の公園計画において安波園地、安波野営場、安波宿舎事業が位置づけられています。

環境教育センターやんばる学びの森は平成19年4月に供用開始された国頭村にある滞在型の環境学習施設です。やんばるの森を眺望できる宿泊施設、展示施設、キャンプ広場、オートキャンプ場、遊歩道があり、ガイドウォーク、ナイトハイク、カヤック等のアクティビティも提供しています。豊かな自然環境の中で、環境を保全しつつ体験活動を行う環境学習施設として、国頭村が指定管理制度により運営しています。また、一定の広さの未利用敷地があり、宿泊施設を新設することも可能です。



▲やんばる学びの森 学びのゾーン

出典：国頭村提供資料



▲やんばる学びの森 遊びのゾーン

②方向性

世界遺産の緩衝地帯の中という立地を踏まえ、今後、新たな宿泊施設の誘致、既存の宿泊施設やキャンプ場のリニューアルや運営見直し等、滞在施設全体の魅力向上に取り組むとともに、やんばる国立公園ならではの自然体験アクティビティの提供や情報提供(ビジター施設機能)の強化等、地域

独自の魅力を活かした滞在体験に必要なコンテンツをパッケージで提供する拠点として機能を付加し、運営を行うことを想定しています。

整備・運営にあたっては、地域内外の民間事業者の発想・ノウハウを活用します。

なお、新たな宿泊施設を誘致する場合においては、世界遺産の緩衝地域であることも踏まえ、適正な規模となるよう留意します。

加えて、やんばる国立公園における滞在体験の魅力向上に向けて、他の利用拠点等との面的な連携方策を検討します。

■大宜味村：塩屋湾・結の浜

①概 要

やんばる国立公園の入口にある道の駅おおぎみ やんばるの森ビジターセンターから北へ進むと、沖縄八景にも選ばれた風光明媚な景勝地の塩屋湾とその先には結の浜があります。

塩屋湾は陸地に大きく入り込んだ地形の入り江であり、1周約8kmの規模です。湾沿いには、自然環境と共生してきた歴史文化が根付いており、塩屋湾のウンガミ(国指定重要無形民俗文化財、約500年もの歴史ある行事)が毎年旧盆明けの亥の日に行われています。北東方向は石灰岩性の森林に囲まれた多様な生物の生息地であり、その森の中の遊歩道を散策しながら観察することができます。周辺の自然観察等を行うためにやんばる国立公園の公園計画において塩屋湾園地事業が位置づけられています。

結の浜には、地域住民の交流・塩屋湾との触れ合いの場所となっている結の浜公園(平成26年供用開始)と、大宜味村が宿泊施設の誘致を目指すエリア(5.5ha)があります。

塩屋湾・結の浜は山と海、そしてそれらと人々が密接につながりながら形成した文化や情報が集積するエリアとなっており、地域の魅力を凝縮し情報発信することが可能となっています。

②方向性

やんばる国立公園の入口にあたる立地を踏まえ、大宜味村が誘致を目指す宿泊施設とともに、やんばる3村全体を見据えた情報発信、自然体験等のアクティビティ提供、滞在体験の窓口等の機能を付加し、やんばる3村の滞在体験を魅力的に味わうことが可能な機能をパッケージで提供できる拠点とします。

誘致を目指す宿泊施設を整備・運営する民間事業者のノウハウを活用して、やんばる国立公園の自然体験、やんばるの自然環境の魅力を様々な角度から味わうことができる利用拠点を目指します。



▲道の駅おおぎみ やんばるの森ビジターセンター



▲塩屋湾のウンガミの様子

出典：大宜味村提供資料

■東村：福地ダム周辺

①概 要

世界自然遺産の遺産地域に隣接しており、ダム湖周辺は亜熱帯照葉樹林に囲まれ、散策や周遊船の利用等により、自然観察ができる場所として、やんばる国立公園の公園計画において福地園地事業が位置づけられています。

やんばるの森を湖上から楽しむ自然観察船やカヤック等のアクティビティが行われている福地ダム、やんばるの自然環境と人々の生活について学ぶことができる東村立山と水の生活博物館、バンガローやキャンプ場等の宿泊施設やリポートレッキングなどのアクティビティが提供されている東村村民の森つつじエコパークなどの利用施設が集中しているエリアです。福地川海浜公園においては、海水浴、各種アクティビティ(バナナボート、スノーケル、シーカヤック他)、バーベキュー、キャンプなどが満喫できます。

この一帯に滞在し、自然体験アクティビティを通じて、やんばる国立公園等の魅力を体感することができます。



▲福地川海浜公園

出典：東村提供資料



▲東村村民の森 つつじエコパーク

②方向性

世界遺産の入口(ゲート)にあたる立地を踏まえ、やんばる3村全体での滞在体験についての情報発信、自然体験等のアクティビティ提供、滞在体験等の機能を付加し、やんばる3村の滞在体験を魅力的に味わうことが可能な機能をパッケージで提供できる拠点とします。

既存の施設が整備されているものの、整備から時間が経過している施設も多いことから、それらのリニューアル等や、新たな宿泊施設の誘致の可能性について検討します。

なお、新たな宿泊施設の誘致や施設整備を検討する場合においては、世界遺産の遺産地域・緩衝地域を含むことも踏まえ、適正な内容・規模となるよう留意します。

(2) 利用拠点を核としたやんばる3村連携

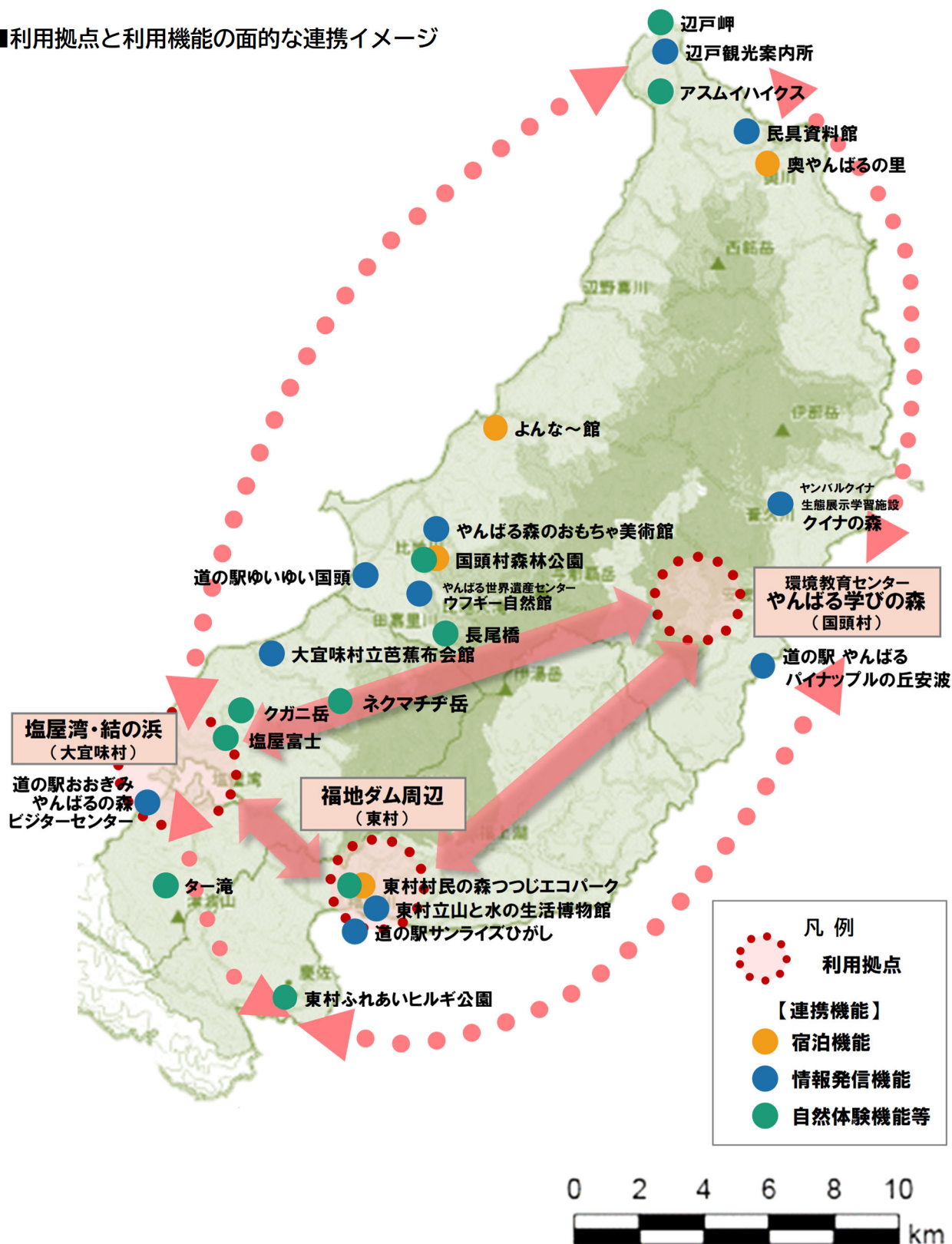
利用拠点を核とし、やんばる3村全体で滞在体験を満喫できるプログラムを検討します。また、利用拠点だけでなく、国立公園内外の既存宿泊施設と連携することで、通過型・日帰り型の利用から滞在型の利用への転換を促します。

さらに、利用拠点を核として、既存の観光施設とも連携し面的な魅力向上を図るため、情報連携や送客手段等の方法を検討します。特にやんばる3村までのアクセス、3村内での利用拠点や連携先間のアクセスに課題があることから、民間事業者の知見も活用し、域外も含めた移動手段について検討します。

連携先 (利用機能)	役割	例
宿泊機能	● 滞在型観光の推進に向けた滞在利用の受け皿となる ● 滞在者に対して利用に関する情報を伝え、滞在体験の魅力向上を支援する	● 奥やんばるの里(国頭村) ● 環境教育センターやんばる学びの森(国頭村) ● よんな～館(国頭村) ● 国頭村森林公園(国頭村) ● 東村村民の森つつじエコパーク(東村) ● その他、民泊、キャンプ場、民間ホテル・旅館等
情報発信機能	● やんばる3村の魅力・価値、望ましい利用のあり方、利用のルールを発信する ● 地域の人々や来訪者に固有の自然環境、歴史、文化等に関するストーリーを伝え、学ぶ機会を提供する ● 滞在体験の提供に向けたプログラム案内、ガイドの紹介等を行う	● やんばる世界遺産センターウフギー自然館(国頭村) ● 辺戸岬観光案内所(国頭村) ● ヤンバルクイナ生態展示学習施設クイナの森(国頭村) ● 道の駅ゆいゆい国頭(国頭村) ● 道の駅やんばるパイナップルの丘安波(国頭村) ● やんばる森のおもちゃ美術館(国頭村) ● 民具資料館(国頭村) ● 道の駅おおぎみ やんばるの森ビジターセンター(大宜味村) ● 大宜味村立 芭蕉布会館(大宜味村) ● 道の駅サンライズひがし(東村) ● 東村立 山と水の生活博物館(東村) 他
自然体験機能等	● 滞在体験を提供し、やんばる3村の価値を伝える	● 国頭村森林公園、長尾橋(大石林道)、比地大滝(休止中)、辺戸岬、アスムイハイクス(旧大石林山)など(国頭村) ● 東村村民の森つつじエコパーク、東村ふれあいヒルギ公園 など(東村) ● クガニ岳、塩屋富士、ター滝、ネクマチヂ岳 など(大宜味村) ● その他観光資源

利用拠点を核としたやんばる3村の面的な連携イメージは次のとおりです。既存の利用機能とも連携することで、滞在体験を通してエリアごとの固有の魅力を味わい、長期間かつ何度も訪れたい魅力的な滞在体験の提供を目指します。

■利用拠点と利用機能の面的な連携イメージ



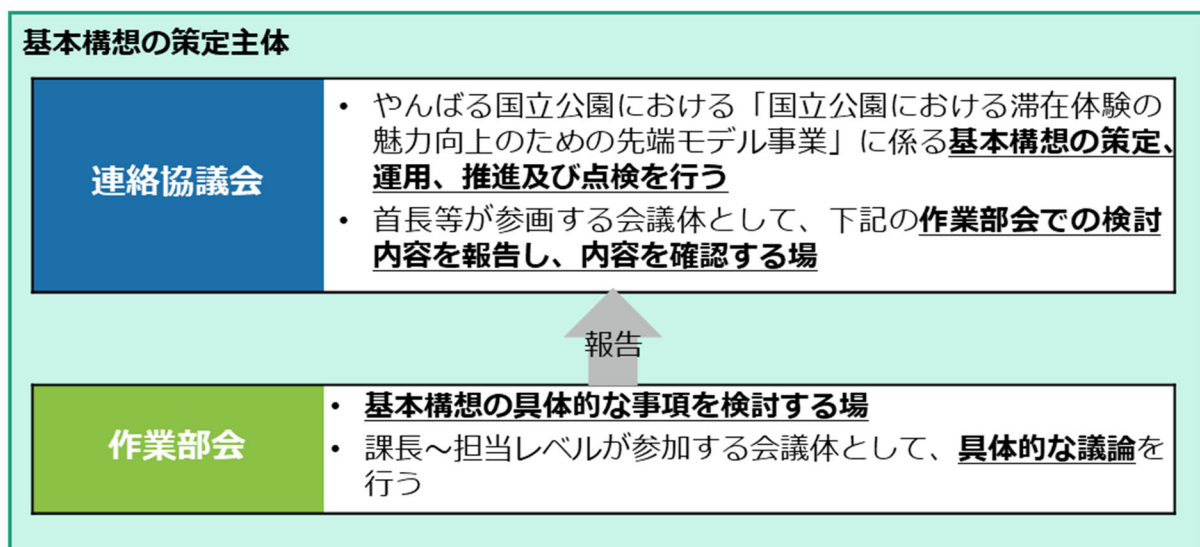
■ 第5章 滞在体験の魅力向上に向けた推進枠組みの方向性

1. 推進枠組みの方向性

本基本構想の策定主体である「連絡協議会」及び「作業部会」の枠組みを活用し、本基本構想の実現に向けた具体方針の検討やインタープリテーション全体計画の検討を継続して実施します。

なお、連絡協議会及び作業部会は、やんばる3村の関係行政機関等による協議・合意形成のための枠組みであることから、具体的な事業の実施にあたっては、地域協働実施体制の検討が別途、必要となる可能性もあります。現時点ではあり方を方向性付けられる段階にはないため、引き続きやんばる3村にとって好ましい地域協働実施体制のあり方を検討します。

■現状の検討体制



2. 人材育成の方針

やんばる3村で連携し、地域全体で人材育成を行う仕組みを検討します。

特に、ただ訪れただけではやんばる3村の魅力を十分体験することが難しいため、地域全体でインタープリテーションが実践できる人材育成が必要であるとともに、特別な体験や利用等の提供に向けてはガイド等が果たす役割も重要と考えています。現在ある魅力の伝達はもちろん、魅力を形作っている貴重な自然環境の保護や地域文化の継承、住民の暮らしの維持・活性化等に取り組む人材の育成を実施します。

既に各村にて実施されている人材育成の取組を発展させ、やんばる3村全体にて情報連携等を行うことにより、観光を生業とする人だけで滞在体験の魅力向上を実現するのではなく、地域の方々に関与頂く等、地域全体で事業を推進する人材を育てることができる仕組みを目指します。また、子供や学生に対してはガイド等の職業体験等を通じて、仕事の面白さを伝え、担い手の確保にも取り組みます。

3. 周辺地域との広域連携

やんばる3村の周辺地域との連携により、来訪者の交通アクセス向上、多地域連携による長期滞在の促進(宿泊施設不足への対応、訪問場所の増加等)、現地到着前の事前情報の提供等、滞在体験の円滑性・快適性向上・充実に向けた連携を目指します。

北部広域市町村圏事務組合では、北部12市町村で観光地経営や地域づくりを担い観光振興を牽引する観光地域づくり法人(DMO)の設立に向けた取組を進めており、その動向を踏まえ、広域連携のあり方を検討します。

また、海洋博公園を始めとした周辺の観光施設と連携して沖縄島北部エリアの魅力を発信します。

加えて、やんばる3村のみでは対応できない機能(救急、交通、緊急対応等)については、他地域の自治体等との広域的な連携を積極的に推進します。

■ 第6章 情報発信と地域の持続性を高める仕組みづくり

1. 効果的な情報発信・情報連携

(1) やんばるブランドや自然文化体験コンテンツの普及啓発

やんばる3村に興味を持ち、地域の魅力と訪問目的が合致した来訪者を誘致するためには、日本国内に留まらない情報発信が必要です。

やんばる3村の認知度向上に向けた広告宣伝による情報発信だけでなく、やんばる3村の特色である地場産品等の販路拡大等によるやんばるブランドの普及促進等、多様な側面から地域の魅力発信を検討します。

また、来訪を検討する方々に対し、旅の前に自然文化体験コンテンツの面白さに触れることができる機会(情報に触れる機会)の創出を検討し、短時間の日帰り滞在から、複数日の滞在型利用への移行誘導を目指します。また、旅の終了後に、来訪者が自らやんばる3村の魅力を発信することを期待し、付加価値の高いインパクトある滞在体験を提供することにも取り組むとともに、発信促進の呼びかけ等も検討します。

(2) 取組を持続的に推進するために効果的な情報発信の方策の検討

やんばる3村においては既に村や観光協会、各施設による情報発信が行われているとともに、やんばる3村観光協議会等の連携の枠組みも既に整備されている状況です。一方で、地域外からの情報収集の視点では、やんばる3村それぞれの特徴を理解し、迅速に目的とする村や施設等の情報に到達することはハードルが高く、また既存の枠組みでの情報更新が十分ではない状況です。

そのため、個別に発信している情報を集約するなど、やんばる3村内での情報連携の強化を進め、地域外の方々がやんばる3村の最新情報に容易にアクセスできる方法の検討が必要です。情報発信の手段として、既存の枠組みを活用するか、又は新たな情報発信手法を活用するかについて、持続的に継続できるよう取組主体側の負担も考慮し、誰もが気軽にやんばる3村の情報にアクセスできる方策を検討します。

その際、現在の利用者がやんばる国立公園及びやんばる3村の情報にどのようにアクセスしたかを分析し、効果的な情報発信の方策となるよう留意します。

2. 自然環境を保全し、地域を育む利用に関するモニタリング

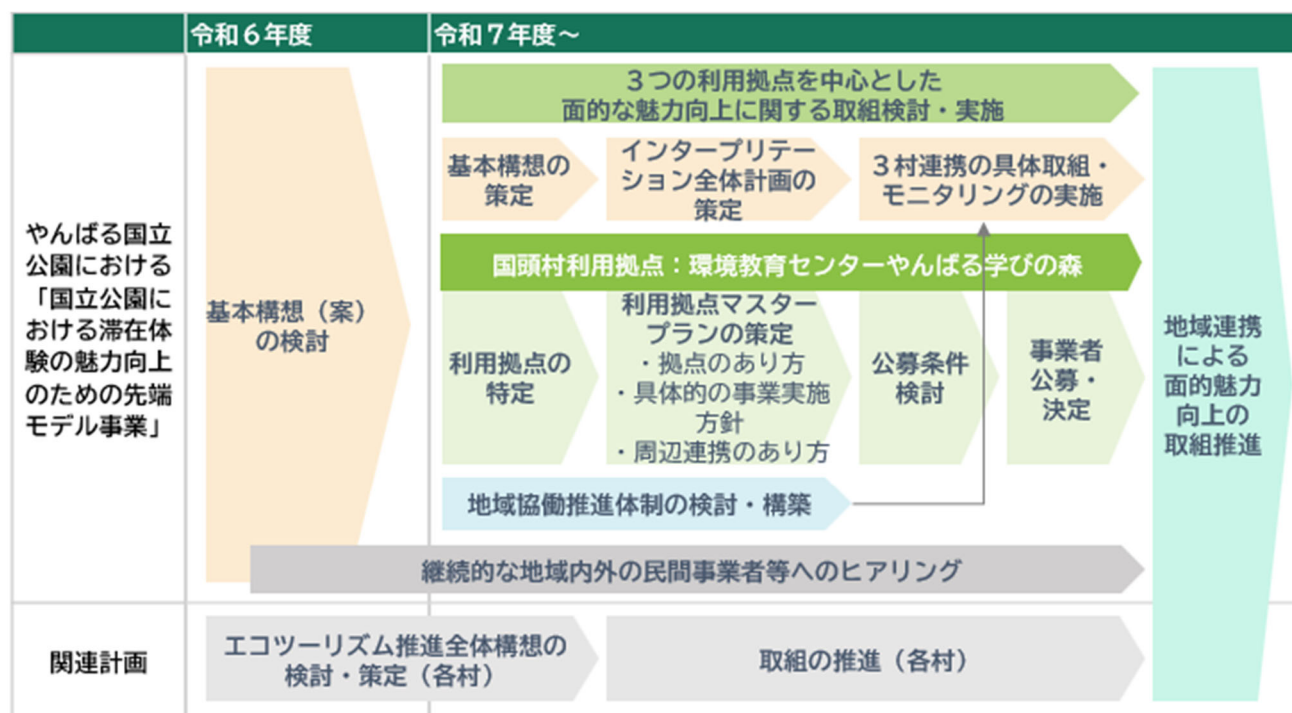
滞在体験の魅力向上が地域活性化にもたらす効果の把握においては、人口動態や所得額の推移等の定量的な指標は重要ではあるものの、それだけで効果を測ることはできません。地域住民・地域団体の意識の変化、来訪者からのやんばる国立公園及びやんばる3村に関する満足度の把握等、定性的な指標も含め、効果を分析することが持続的な取組検討に寄与する指標となると考えます。これらの指標はやんばる3村統一で取得することで面的な効果の分析に役立ちます。

そのため、モニタリングに向けた第1歩として、効果的な取得データの項目及び継続したモニタリングとなるようにやんばる3村に適したモニタリング手法・体制についてやんばる3村連携のもと検討します。定量的な指標に関しては、既にある3村全体をカバーする統計調査(一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー(以下、「OCVB」という。))のおきなわ観光地域カルテなど)を活用することも考えられます。

■ 第7章 今後の検討スケジュール

やんばる3村における滞在体験の魅力向上に向けた取組は、以下のスケジュールにて進める予定です。取組検討の進捗に合わせて、スケジュール・検討内容を見直すとともに、新たな検討事項の追加も随時実施します。

■検討スケジュールイメージ

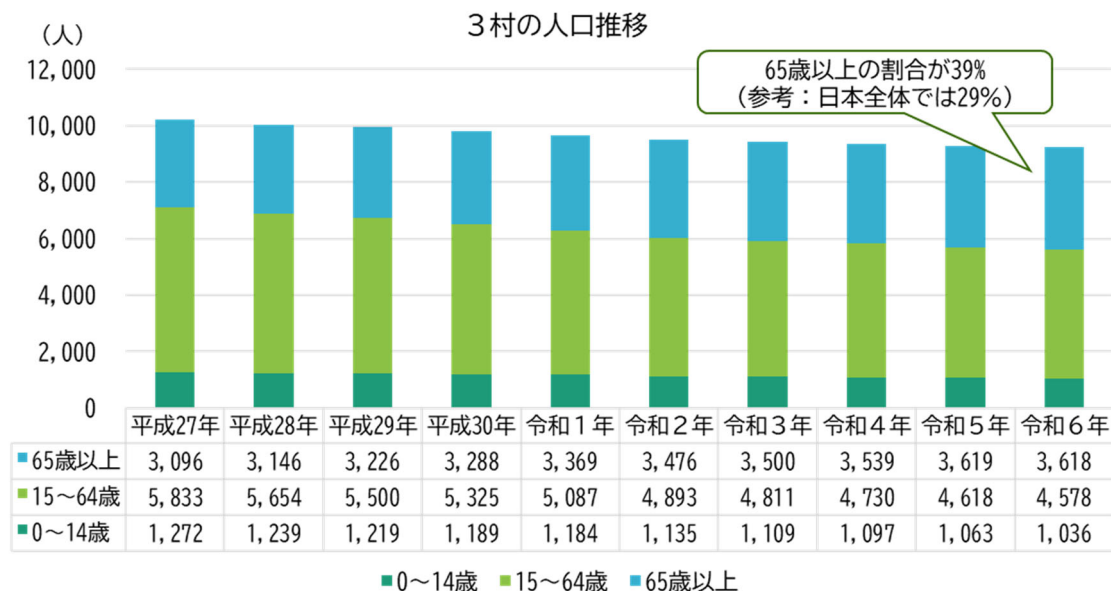


■ 卷末参考資料

参考資料1 | やんばる3村の概要

① 人口の動向

やんばる3村では人口減少の傾向が続いており、また、65歳以上の人口の割合が39%と高く、高齢化が進んでいる地域であるといえます。



出典：政府統計の総合窓口(e-Stat)（住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査）より作成

② 就業の動向（産業（大分類）15歳以上就業者数）

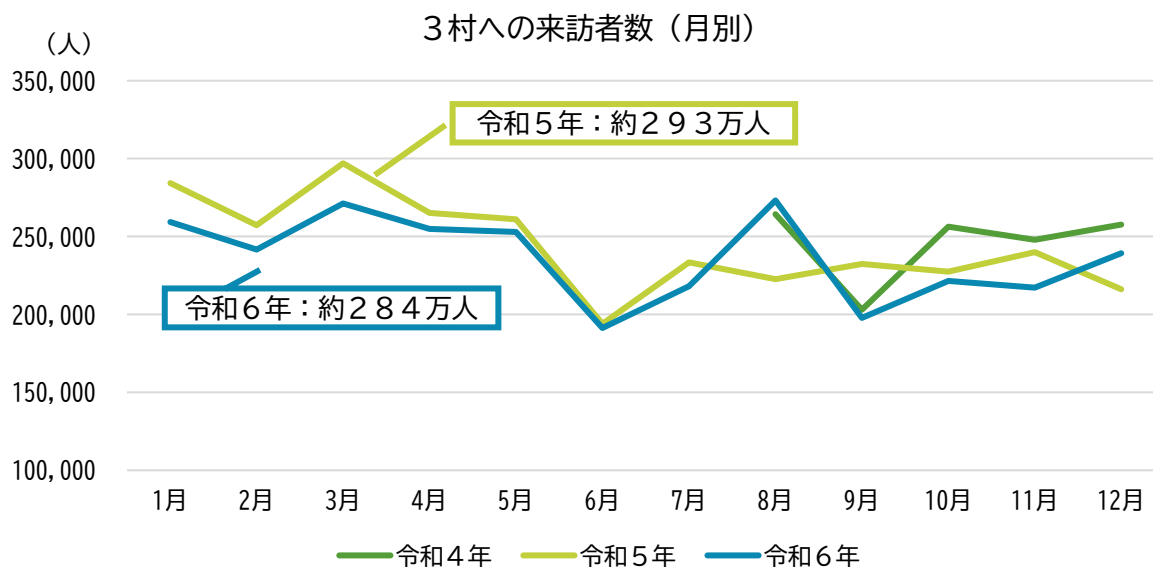
やんばる3村における就業者の割合は「農業・林業」が最も高く、「医療・福祉」「宿泊業、飲食サービス業」が続いています。

		国頭村	大宜味村	東村	やんばる3村		沖縄県
総数		2,238	1,463	864	4,565		730,954
第1次産業	農業，林業	396	334	291	1,021	1,092	23.9%
	漁業	46	7	18	71		
第2次産業	鉱業，採石業，砂利採取業	2	1	3	6	616	13.5%
	建設業	229	134	60	423		
	製造業	56	95	36	187		
第3次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	6	2	2	10	2,857	62.6%
	情報通信業	19	2	4	25		
	運輸業，郵便業	52	52	16	120		
	卸売業，小売業	214	124	50	388		
	金融業，保険業	8	2	2	12		
	不動産業，物品賃貸業	8	13	2	23		
	学術研究，専門・技術サービス業	43	20	10	73		
	宿泊業，飲食サービス業	375	90	72	537		
	生活関連サービス業，娯楽業	86	34	30	150		
	教育，学習支援業	103	80	48	231		
	医療，福祉	265	233	90	588		
	複合サービス事業	36	14	8	58		
	サービス業（他に分類されないもの）	111	83	43	237		
	公務（他に分類されるものを除く）	183	143	79	405		

出典：令和2年国勢調査（就業状態等基本集計）より作成

③ 来訪者

やんばる3村への月別の来訪者は、1月、3月が比較的多く、6月、9月が少ない結果となっています。



出典：OCVB「おきなわ観光地域カルテ（対象：令和4年8月～令和6年12月）」より作成

④ 来訪者の属性

やんばる3村への来訪者は、沖縄県からの来訪者が約8割と多く東京都・神奈川県・大阪府の大都市圏がそれに続いています男性では40代、女性では50、60代が多く来訪しています。

3村への来訪者数（発地別）

	都道府県	令和5年	令和6年	構成比*
1	沖縄県	2,187,534	2,076,037	79.3%
2	東京都	105,290	101,367	3.9%
3	神奈川県	102,080	100,189	3.8%
4	大阪府	68,113	77,633	3.0%
5	福岡県	45,442	57,069	2.2%
6	愛知県	47,146	53,428	2.0%
7	埼玉県	54,900	46,212	1.8%
8	千葉県	50,247	37,585	1.4%
9	北海道	29,382	34,698	1.3%
10	兵庫県	38,184	34,279	1.3%

3村への来訪者数（性別/年代別）

性別	年代	令和5年	令和6年
男性	小計	1,635,432	1,680,552
	20代	279,241	291,828
	30代	351,403	290,785
	40代	409,314	461,983
	50代	340,942	350,142
	60代	254,532	285,814
女性	小計	1,204,562	1,048,280
	20代	112,646	125,532
	30代	251,265	152,063
	40代	220,220	181,235
	50代	323,096	261,347
	60代	297,335	328,103

出典：OCVB「おきなわ観光地域カルテ」より作成

※令和6年の来訪者における構成比

⑤ 観光入込客数

沖縄県の令和5年度の入域観光客数(国内観光客、外国人観光客)は約853万人であり、入込客のやんばるへ(最北部)^(注1)の訪問率は10.2%であるため、約87.0万人がやんばる(最北部)を訪れたと推測されます。

(人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
沖縄県観光入込客数	8,769,200	9,579,900	10,004,300	9,469,200	2,583,600	3,274,300	6,774,600	8,532,600
やんばる(最北部)への訪問率	6.0%	6.3%	6.6%	6.7%	10.4%	12.1%	10.9%	10.2%
やんばる(最北部)への入域観光客数(推測値)	526,152	603,534	660,284	634,436	268,694	396,190	738,431	870,325

出典：沖縄県入域観光客統計概況、沖縄県観光統計実態調査より作成

※沖縄県観光統計実態調査においては、やんばる3村ではなく、やんばる(最北部)として調査を実施しているため、やんばる3村とは定義が異なります。

⑥ 宿泊施設数・収容人数

やんばる3村における宿泊施設数について、民宿やペンション・貸別荘が65軒と宿泊施設全体の約80%を占めており、対してホテル・旅館は9軒あり全体の約10%となっています。

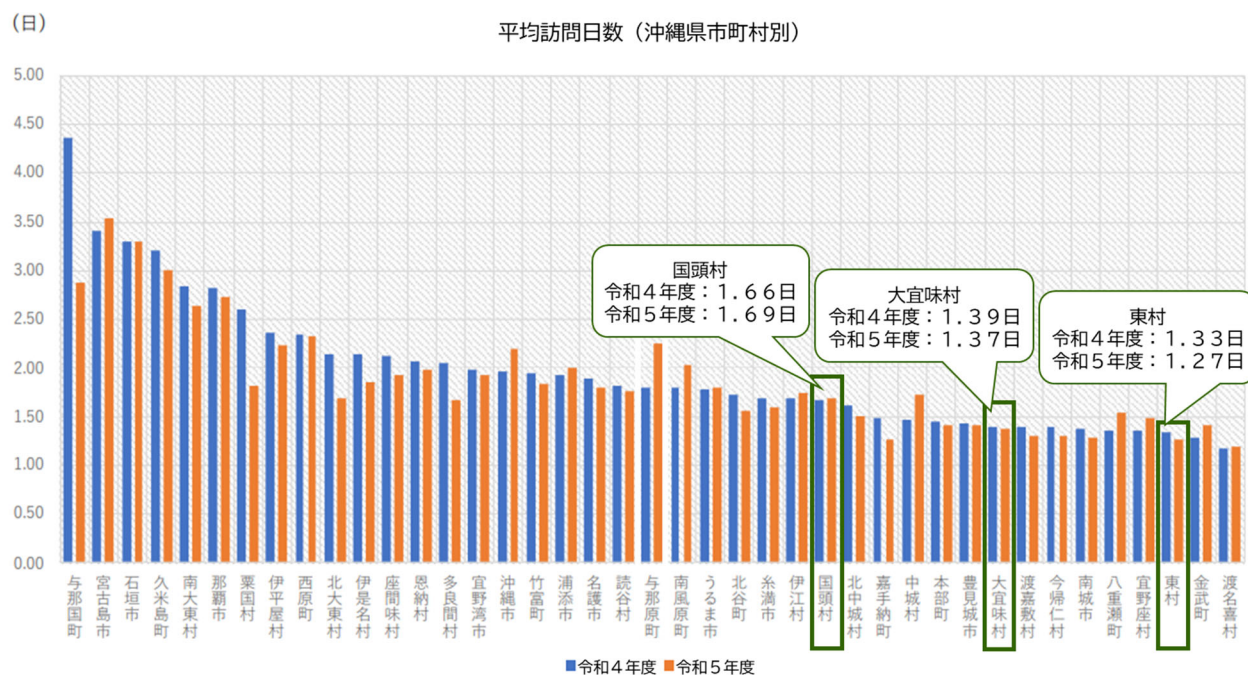
(軒、人)

	ホテル・旅館		民宿		ペンション・貸別荘		ドミトリ・ゲストハウス		団体経営施設		合計	
	軒数	収容人数	軒数	収容人数	軒数	収容人数	軒数	収容人数	軒数	収容人数	軒数	収容人数
国頭村	8	825	9	122	13	105	4	179	2	61	36	1292
大宜味村	0	0	4	59	17	123	1	15	0	0	22	197
東村	1	48	10	79	12	127	0	0	1	99	24	353
合計	9	873	23	260	42	355	5	194	3	160	82	1,842

出典：令和5年版沖縄県観光要覧 市町村別・種別宿泊施設等(令和5年12月31日時点)より作成

⑦ 平均訪問日数

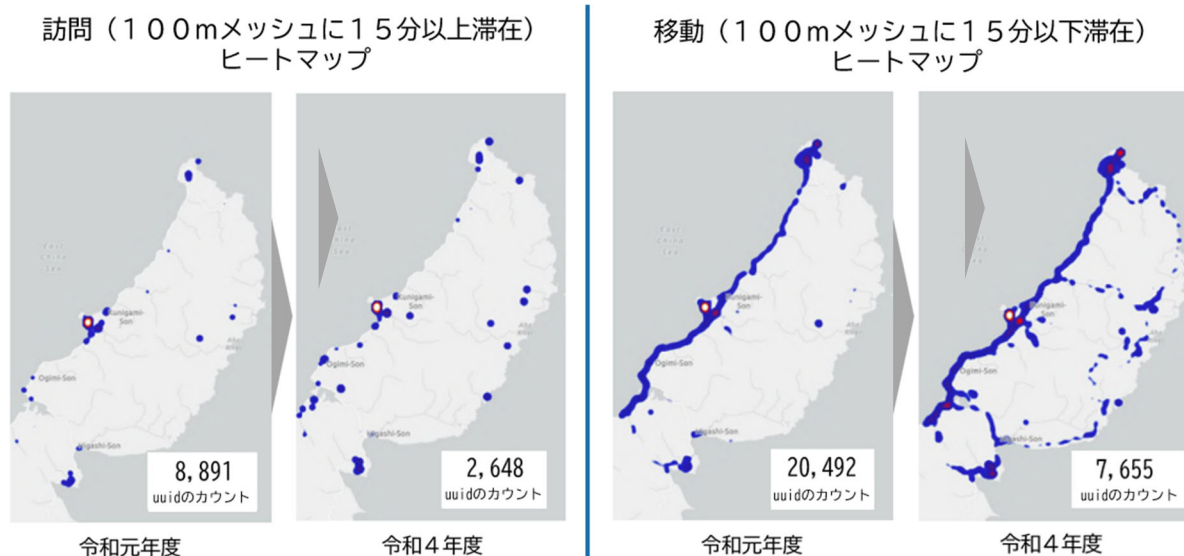
やんばる3村は沖縄県の中でも平均訪問日数が少ない傾向にあります。



出典：沖縄県 DX 観光動態調査事業分析レポートより作成

⑧ 観光客の人流（世界自然遺産登録前後の比較）

世界自然遺産登録前後における人流を比較すると、登録後においては東海岸側へも移動・訪問する傾向が確認されます。



出典：沖縄県 DX 観光動態調査事業分析レポートより作成

⑨ 二次交通の状況

路線バスは1路線が運行しており、コミュニティバスは国頭村・東村にて運行されています。やんばる3村内においてバスの種類や便数が限られており、交通利便性が低い状況であると言えます。

交通利便性向上に向けた取り組みとして、国頭村においては、令和5年度より「国頭村交通不便地域における二次交通実証事業」として観光関連施設等を結ぶ周遊バスを運行しています。

種別	事業者	路線名	運行区間		便数
			起点	終点	
路線バス	沖縄バス	辺土名線	名護 バスターミナル	辺土名 バスターミナル	平日：12便 土日祝：11便
コミュニティ バス	国頭村	奥線	辺土名	奥	2便
	国頭村	東線	辺土名	安田・安波 ・楚洲	2便
	東村	高江 ・源河線	名護市源河入口	高江売店前	平日：1便 土日祝：3便
	東村	高江 ・大宜味線	道の駅おおきみ ビジターセンター	東村役場	平日：1便 土日祝：3便
国頭村周遊バス (実証事業)	国頭村	—	道の駅 ゆいゆい国頭	オクマプライベート ビーチ&リゾート	4便

※上記は令和6年度におけるバスの運行状況

出典：国頭村ホームページ（<http://www.vill.kunigami.okinawa.jp/access/> <http://www.vill.kunigami.okinawa.jp/kunigami-village/wp-content/uploads/2024/06/fd7e7b503eb3e54e3be52f19495b85d0.pdf>）、
東村ホームページ（<https://www.vill.higashi.okinawa.jp/soshikikarasagasu/somuzaiseika/11/468.html>）より作成

⑩ やんばる国立公園における利用動向

やんばる3村における過去10年間の利用者数調べにおいて、やんばる国立公園内の観光拠点の利用人数は、辺戸岬が最も多く、次いで道の駅ゆいゆい国頭や道の駅おおきみやんばるの森ビジターセンターの利用者が多い傾向にあります。

村	地点	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備考
国頭村	辺戸岬	247,884	236,960	235,988	248,834	265,813	380,424	335,805	386,200	439,308	451,918	入込者推定者数
	アスミハイクス(旧大石林山)	61,089	62,358	71,711	78,425	82,884	104,952	50,760	57,175	86,262	88,055	入場者数
	奥やんばるの里	3,964	4,925	4,304	4,078	4,161	4,226	1,058	4,790	5,100	5,148	宿泊者数(延べ)
	道の駅ゆいゆい国頭(観光物産センター)	141,312	144,452	153,536	153,795	145,900	146,141	117,242	120,260	153,695	144,966	レジ通過数
	道の駅ゆいゆい国頭(やんばる3村観光連携拠点施設)			18,817	23,663	1,548	3,220	685	132	1,740	30,076	窓口対応者数(H30～変更)
	国頭村森林公園	5,797	5,559	4,446	3,256	3,028	2,365	2,131	2,770	1,972	3,075	宿泊者数(延べ)
	やんばる森のおもちゃ美術館	15,114	15,673	13,455	12,452	12,846	11,484	4,167	4,545	12,680	12,812	入場者数
	やんばる野生生物保護センターウフギー自然館		12,250	13,615	12,552	11,399	11,702	3,626	4,001	12,380		個人の利用者+団体の利用者
	ヤンバルクイナ生態展示学習施設	15,704	15,435	17,784	15,288	15,464	19,801	13,408	21,812	35,668	39,688	入場者数
	やんばる学びの森	20,809	22,705	22,134	20,748	19,633	18,894	8,301	4,386	9,053	8,735	来訪者数
	道の駅やんばるバイナッブルの丘安波									57,882	25,866	入場者数
	比地大滝	28,130	31,032	29,623	27,371	25,333	31,047	23,096	22,696	21,127	23,845	入場者数
東村	よんなー館			316	191	372	161	112	125	388	440	宿泊者数(延べ)
	ふれあいヒルギ公園	50,780	33,171	35,109	50,385		49,270	26,432	28,756	48,958	41,765	
	村民の森つつじエコパーク	59,812	77,850	47,049	59,553		51,024	30,830	27,138	30,025	28,208	
	福地川海浜公園		10,207	13,928	13,910		15,934	7,628	10,922	10,322	7,233	
	山と水の生活博物館	9,126	11,409	10,122	13,357		12,401	3,837	5,092	9,829	11,015	
大宜味村	道の駅おおきみやんばるの森ビジターセンター	79,040	74,436	81,297	70,041		36,541	128,541	137,441	136,012	136,566	
	大宜味村農村活性化センター						74,996	33,000	28,279	43,653	40,009	
	大宜味村立芭蕉布会館	6,754	6,642	6,684	6,760		7,009	1,868	2,114	5,314	5,596	
	ター滝	33,000	35,000	35,000	38,000		33,989	33,890	37,971	29,628	36,795	

※やんばる野生生物保護センターウフギー自然館は、やんばる世界遺産センターウフギー自然館に改修のため、令和6年5月より閉館中

出典：国頭村、東村、大宜味村提供資料（主要観光施設の利用者数調べ）より作成

参考資料2 | 利用実態アンケートの概要

① アンケートの実施概要

やんばる国立公園利用実態アンケートは、やんばる国立公園及び周辺地域の利用実態を把握するために、環境省がやんばる国立公園における滞在体験の魅力向上先端モデル事業を通じて令和6年8月と10月に対面調査により実施したアンケート調査です。

実施時期	令和6年8月16日（金）～17日（土） 令和6年10月12日（土）～13日（日）
調査方法	調査地点において、利用者にインタビュー形式でアンケートを実施
調査地点	国頭村：ASMUI Spiritual Hikes アスミハイクス（旧大石林山）※ 東村：東村ふれあいヒルギ公園 大宜味村：道の駅おおぎみやんばるの森ビジターセンター（ドーム施設周辺）の計3カ所
調査対象	やんばる国立公園及びその周辺地域（やんばる3村）
回答者数	計254票 調査時期別 8月調査：130票、10月調査：124票 調査地点別 大石林山：98票、東村ふれあいヒルギ公園：56票、 道の駅おおぎみやんばるの森ビジターセンター：100票

※アンケート調査時点では、「ASMUI Spiritual Hikes アスミハイクス」は「大石林山」の名称で調査したため、以降は大石林山としてとりまとめを行っています。

② 回答者属性

年代	30～50代で全体の74%を占め、20代は11%、60代以上は13%（N=254）
居住地	沖縄県内21%、沖縄県外71%、国外8% 沖縄県外は東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、埼玉県といった首都圏からの訪問者が多かった。国外は台湾からの訪問が最も多く、欧州、北米、中東、東南アジア等、世界各国から訪問されていた。 （N=254 県内54 県外181 国外19）
同行者	国内では夫婦・カップルでの旅行34%、家族旅行（子供連れ）35%と、夫婦・カップルでの旅行又は家族旅行（子供連れ）の割合が比較的高く、海外は友人との旅行と回答した方が最も多かった。（N=254）

③ 訪問スポット

大石林山、やんばるの森ビジターセンター、辺戸岬、道の駅ゆいゆい国頭、東村ふれあいヒルギ公園の順に訪問した又は訪問すると回答した方が多くなりました。（複数回答）

- 訪れた（又は訪れる予定の）場所について回答数の上位5位

順位	訪問スポット	回答数
1	大石林山	138
2	道の駅おおぎみやんばるの森ビジターセンター	123
3	辺戸岬	115
4	道の駅ゆいゆい国頭（やんばる3村観光連携拠点施設）	72
5	東村ふれあいヒルギ公園	70

④ 訪問目的

「自然や景勝地の訪問」を一番の目的としている方が圧倒的に多く、次に「カヌー・カヤック・サバニ」、「ドライブ・ツーリング」、「自然観察体験」の順に回答数が多くなりました（「その他」は除く）。

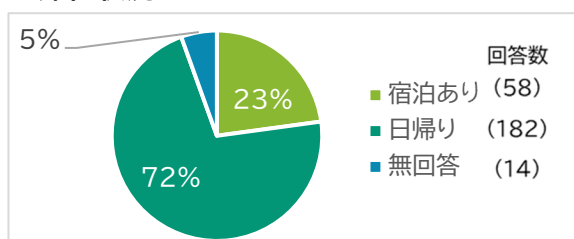
■ 今回の訪問における一番の目的について回答数の上位5位

順位	訪問の一番の目的	回答数
1	自然や景勝地の訪問	103
2	カヌー・カヤック・サバニ	24
3	その他	23
4	ドライブ・ツーリング	20
5	自然観察体験	16

⑤ 滞在・宿泊状況

やんばる3村に訪れる観光客のうち、72%は日帰りで訪れていました。また、北部地域に宿泊する方のうち、やんばる3村に宿泊する方は全体の1/3程度で、やんばる3村に観光で訪れ、かつ宿泊する方は一部にとどまっていることがうかがえます。

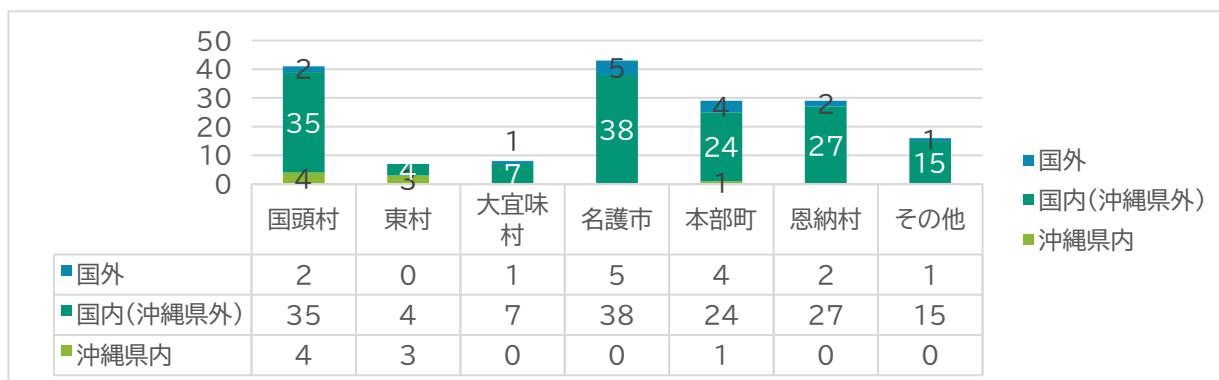
■ 滞在状況



■ 北部エリアの宿泊の動向（回答数＝157）

北部エリアに宿泊		
	うち、やんばる3村に宿泊	うち、その他北部エリアのみに宿泊
157	56	101

■ 北部に宿泊した場合の宿泊自治体



出典：環境省 やんばる国立公園利用実態アンケート（令和6年）

参考資料3 | やんばる国立公園連絡協議会・作業部会の構成員

連絡協議会 構成員	
《国の機関》	
1	林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署長
2	環境省沖縄奄美自然環境事務所長
《地方自治体》	
3	沖縄県環境部長
4	沖縄県文化観光スポーツ部長
5	国頭村長
6	大宜味村長
7	東村長
《観光関係団体》	
8	一般社団法人国頭村観光協会 会長
9	一般社団法人大宜味村観光協会 会長
10	NPO 法人 東村観光推進協議会 理事長

作業部会 構成員	
《国の機関》	
1	林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署
2	環境省沖縄奄美自然環境事務所
《地方自治体》	
3	沖縄県環境部自然保護課
4	沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課
5	国頭村環境保全課
6	国頭村商工観光課
7	国頭村企画政策課
8	大宜味村企画観光課
9	東村企画観光課
《観光関係団体》	
10	一般社団法人国頭村観光協会
11	一般社団法人大宜味村観光協会
12	NPO 法人 東村観光推進協議会

参考資料4 | 基本構想の検討体制・経緯

基本構想は下記の会議体等にて検討しました。

■やんばる国立公園連絡協議会

開催回	開催日	開催場所	議事・テーマ等
第1回	令和6年 2月28日（水）	国頭村	・ やんばる国立公園連絡協議会設置要綱について ・ やんばる国立公園における滞在体験の魅力向上先端モデル事業について 等
第2回	未定 （令和7年度上半 期開催予定）	未定	・ やんばる国立公園における滞在体験の魅力向上に向けた基本構想（案）の確認 等

■やんばる国立公園連絡協議会 作業部会

開催回	開催日	開催場所	議事・テーマ等
第1回	令和6年 7月2日（火）	国頭村（オンライン併用）	・ 作業部会の趣旨確認 ・ やんばる国立公園における滞在体験の魅力向上先端モデル事業について 等
第2回	令和6年 9月5日（木）	大宜味村（オンライン併用）	・ 国立公園の高付加価値化に係る講演 （一般社団法人 JARTA 代表理事／株式会社スピリット・オブ・ジャパン・トラベル代表取締役 高山 傑氏） ・ モデル事業の取組状況報告 ・ 基本構想骨子（案）の作成に向けた意見交換 等
第3回	令和6年 11月6日（水）	東村（オンライン併用）	・ モデル事業の取組状況報告 ・ 民間提案の取入れに向けたヒアリング実施について ・ 基本構想（案）の作成に向けて（各村からの利用拠点候補地検討報告、基本構想（案）の記載事項に係る意見交換） 等
第4回	令和7年 2月7日（金）	国頭村（オンライン併用）	・ モデル事業の取組状況報告 ・ 基本構想（案）の修正案について 等

■地域ワークショップ（詳細は参考資料5 参照）

開催回	開催日	開催場所	議事・テーマ等
第1回	令和6年 8月5日 (月)	東村 (講演のみオンライン併用)	・ ミニ講演 「やんばるの魅力をふまえた滞在体験の魅力向上」 アトリエラパズ（株）代表取締役 永原聡子氏 ・ 「やんばる地域の魅力と課題」について意見交換 (参加者26人)
第2回	令和6年 10月1日 (火)	国頭村	・ 4つの議論トピック（①環境保全 ②地域と生活 ③観光 ④人材確保・育成）ごとにグループ分けし、 「やんばるの目標・将来像」について意見交換 (参加者19人)
第3回	令和7年 1月29日 (水)	大宜味村	・ グループごとに「やんばるの目指す姿 (将来像)」として理想の状態を検討 ・ 上記の実現に向けた具体的取組について意見交換 (参加者15人)

■住民説明会・意見交換会

開催回	開催日	議事・テーマ等	参加人数
大宜味村	令和7年3月10日(月)	・ 基本構想(案)に係る説明 ・ 質疑応答、意見交換 等	10人
国頭村	令和7年3月11日(火)	・ 同上	19人
東村	令和7年3月12日(水)	・ 同上	7人

参考資料5 | 地域ワークショップの開催状況

01. ワークショップの目的

環境省では、地元関係行政団体と連携して、やんばる国立公園を、保護と利用の好循環により、優れた自然を守り、地域活性化を図ることを目的とした新しい取組みを始めています。

この度、やんばるの事業者や住民の皆さんの声もお聞きしつつ、国立公園を保護しながら利用するための「基本構想（案）」を作成するために、地域の皆さまが、“現在のやんばるや将来のやんばるについて語る場”として地域ワークショップを開催しました。

ワークショップは令和6年8月から令和7年1月までに3回開催し、延べ60名の参加がありました。

02. ワークショップの開催日とテーマ

第1回（R6.8月5日） | やんばる地域の魅力と課題

第2回（R6.10月1日） | やんばる地域の目標と将来像の方向性

第3回（R7.1月29日） | やんばる地域魅力向上を通して目指す、やんばるの姿（将来像）

03. ワークショップの成果

①やんばるへの想い、様々な知恵とアイデアが集まりました！

やんばるで暮らし、やんばるで活動する様々な業種や立場、年齢の違う人たちの参加により、やんばるの魅力や課題、将来像について考え、やんばるについてふだんから考えていた様々な意見や知恵、アイデアが、ワークショップを通じて集まりました。

②自らの考えを表現できる場！ -ひとりからみんなへ-

大きな会場でやわらかな雰囲気の中、自分の想いや考えをほかの方々の前で発言する体験や表現することの楽しさ、ほかの参加者のみなさんの意見を聞くことの重要性を感じていただけました。

③スムーズな意見交換！

通常の会議や説明会などに比べ、普段もの静かな人やなかなか意見を言えない人も意見やアイデアを出しやすいよう各班に進行役を配置することで、やんばるを愛する人たちが水平な関係を保ちながらスムーズな意見交換ができました。

④住民みんなで”やんばるを語る場”！

みな、自分たちの暮らすやんばるのことが好きで、やんばるの自然、歴史、文化、暮らしを大切に思っています。今回、改めて、みなで、やんばるの現状（魅力や課題）を考え、将来像をイメージしました。立場や年齢の違う住民が一同に集まって、「やんばるを語る場」がここにありました。

●ワークショップの感想（ワークショップを振り返って考えたこと、気づいたこと）●

- 3村それぞれでなかなかまとまれているが、思っている事はほとんど一緒！3村はもっとまとまるはず
- どのグループも似たような結果になっていること驚いた。普段、考えることのないことを考え、色々なことに気づかされた
- 出された意見が、私が考えている事と似かよっていたので安心した
- 皆、似たようなことを考え、思っているのだなーと
- 他事業所の方々のご意見からの学び、発信を通して、自分の考えも少し整理できた
- 地域のためになることを土台に、自然の保護や活用に向けて取り組むことが大事だと感じた
- 今回のワークショップのように、いろいろな方の意見や考えを共有できるとよい
- 地域の自然や文化、暮らしが多く参加者のよりどころになっている
- 自然と人の暮らしをバランスをとって行くには、様々な立場の人の協力が必要
- 3村のメンバーが集まって、色々共有できたのがよかった。成果物については、他のワークショップと比べて、あまり新鮮味がなかった。

04. 第1回ワークショップの概要

①事業概要に関する説明

②ミニ講演 | 「やんばるの魅力をもたえた滞在体験の魅力向上」 アトリエラパス（株）代表取締役 永原聡子氏

③意見交換 | やんばる地域の魅力と課題について

【意見交換】やんばる地域の魅力と課題について

26名が3つのグループに分かれ、参加者それぞれが日ごろより感じている「やんばる地域の魅力と課題」について意見交換を行い、普段、やんばるについて考えていることを共有しました。

そして、やんばるの魅力と課題を【自然・生物多様性】【自然との共生・地域活性化】【生活環境・地域活性化】【人】【学習・体験】【施設】【インタープリテーション】【農林業との連携】【その他】などの項目に別けて整理、確認することができました。

項目	魅力	課題（不安・悩み）
自然・生物多様性	☐ 自然度が高い、自然があふれている、自然が豊か（多数） ☐ 他地域にない豊かな自然が身近にある（多数） ☐ 自然環境が多様（海、山、川、滝、森など）（多数） ☐ 海がきれい、星がきれい（多数） ☐ 県下最大のダムがある ☐ 水がおいしい	
自然との共生・地域活性化	☐ 自然との距離が近い。山村まで近い ☐ 集落近くまで様々な生き物がいる ☐ 理屈抜きで面白い人と自然がある ☐ 自然、土地の神、コミュニティ、ご先祖様とのつながりを感じられる集落の暮らし、自然を敬う文化（2名） ☐ 超自然の世界がまだある、「いのり」の文化 ☐ イベントが多い	☐ 集落の活気が少ない時がある、 ☐ 買い物難民 ☐ 空地の増加、市場への流通（2 ☐ 集落全体の高齢化、独居化
人	☐ 人が温かい、優しい、人の絆、人のつながり（多数） ☐ 自然、地域づくりに関心のある若者が関与し、住まう土壌 ☐ 長寿の里 ☐ ヘルシーでおいしい郷土料理、長寿食等の食文化（2名）	☐ 地元住民が北部地域の良さに気づいていない ☐ インバウンドが増えてきているものの、どのように対応するのかが良いか ☐ 地域のしがらみ
学習・体験	☐ 星空等の楽しみ方を案内する星ソムリエがいる ☐ 生き物を気軽に見ることができる ☐ 図鑑でしか見たことがないような植物や生き物に会える ☐ 低山登山（午後からでも山歩きできる）、気軽に自然体験 ☐ やんばるの森の核心部は面白い ☐ 本物の体験ができる	☐ どこまで観光客を案内するか（核心部）悩ましい ☐ 滞在を延ばすプログラム（目的）が少ない ☐ モラルが伴っていない、ルールを守らないガイドがいる ☐ 地域を学ぶ自然体験学習が少ない（3名） ☐ 3村でルールが乱立し、観光情報が3村でまとまっていない（2名）
施設	—	☐ 登山道の管理体制ができていない ☐ 保護区域へのアクセスが良すぎることに由来する立ち入り ☐ 遺産エリアがわかりにくいことが悩みである。（2名） ☐ 森歩きの見点が必要（トイレ、シャワー等） ☐ 宿泊施設がなく、滞在期間が延ばせない
インタープリテーション	—	☐ （ガイドなしで）来訪者が勝手に散策し十分に魅力を伝えられていない
その他	☐ 自然と近い暮らしがある環境は魅力 ☐ 自然遺産となっているエリアの95%が過去に人の手が入った自然	☐ やんばる地域全体が魅力的な学びの場 ☐ オーバーツーリズムになるのでは不安（2名） ☐ オーバーツーリズム対策のルール作りが課題（2名） ☐ お金を払わないと自然体験ができない状況になるのでは不安
人	☐ 「やんばるが好きなん」「やんばるに来たい人」を生み出す場所 ☐ 来訪者と住民の交流（ユンタク）も楽しみ（2名） ☐ 人と人とのフレンドリーな距離感が魅力 ☐ 地域で子供を育てる環境がある ☐ 地域の大切さを地域全体で教える環境がある ☐ 山菜料理など食文化も魅力	☐ 観光インフラが不足 ☐ 宿泊施設の確保が課題 ☐ 駐車場の不足、交通アクセスが課題 ☐ 質の良い観光客を受け入れる受け皿環境が整っていない（山道等）
学習・体験	☐ 夜の魅力は宿泊しなければ体験できない ☐ やんばるらしい宿、食、体験コンテンツ ☐ 観光客の多さを感じずに、ゆったり家内できる環境 ☐ 観光と住民の生活フィールドが近い ☐ やんばるらしい宿泊施設、食の提供、自然や文化の体験等、やんばるらしさの創出をより一層考えていく必要がある	☐ 「地域らしさ、●●らしさ」を伝える戦略取組が不足 ☐ 認知度向上に向けた告知の徹底が課題 ☐ やんばるに人を呼び込むためには他エリアとの差別化が必要 ☐ やんばるの魅力を伝えるための工夫が必要
インタープリテーション	—	☐ 地域に世界遺産という共通価値が認識されていない
農林業との連携	☐ 600年以上の林業の継続 ☐ 生活と一体化した林業が魅力 ☐ 林業のノウハウを子供たちや来訪者に伝えることも大切 ☐ 農業も魅力。特徴的な農作物を生産	☐ 自然遺産の指定による林業への影響 ☐ 密漁
その他、テーマ以外のご意見	モデル事業の構想について ☐ せっかくなので計画であれば、地域が恩恵を感じられる計画にしてみたい ☐ 地域ワークショップにて議論した内容がききとれず、やんばるの方向性について ☐ 「地域資源（自然・文化・人）を守りながら活かそう！活かしながら守ろう！」というテーマが良いのではないかと ☐ やんばるのP（過去）よりも今（現在）も魅力ある自然を目指したい ☐ やんばる全体でどのような方向性とするか、保全への認識整理を行う必要がある ☐ 今後増えるであろう来訪者（オーバーツーリズム）について ☐ 来訪者の人数を増やすことが観光の成功ではない。やんばるは、やんばるに来る人を選んで良い ☐ 来訪者のキャパシティを決め、高価値のアクティビティを提供することで、他地域との差別化を図るのが良い	

05. 第2回ワークショップの概要

- ①これまでの取組報告（第1回ワークショップ振り返り、第2回作業部会報告）
- ②意見交換 | 「やんばるの目標・将来像」について

【意見交換】 「やんばるの目標・将来像」について

意見交換は、第1回ワークショップから導いた4つの議論トピックごとにグループ分けし、5班に分かれて、「やんばるの目標・将来像」について行い、それぞれの目標と将来像の方向性について多くのご意見、アイデアをいただきました。

【4つのトピック】

①環境保全 ②地域と生活 ③観光 ④人材確保・育成

A班 | 環境保全

- 保護エリアの明確化や保全ルールの周知徹底が必要
- 生態系の回復、外来種対策等の環境保全の取組
- SDGSへの意識が必要
- 観光客の環境保全に対する意識啓発や保全活動への参加促進

B班 | 地域と生活

- 現在の暮らしを守りつつ、地域の経済発展や生活環境の向上
- 若者や子供が地域を知り、親しめる機会の創出や地元愛の育成
- 「帰る場所」をつくる
- 総合産業としての観光振興、ガイド以外の職業でもインタープリターとして活躍できる

C班 | 観光

- 観光情報の統一化や発信力の強化
- 宿泊施設など滞在時間を長くするための観光インフラ整備
- 持続可能な観光に向けた観光マナー啓発や統一ルールの整備
- やんばるでの体験の高付加価値化、担い手の確保

D班 | 人材確保・育成

- 地元の若手人材の育成・確保、ガイドになる仕組みの整備
- ガイドのボランティア促進やコミュニティへの参加
- ガイドの仕事の魅力発信
- 行政や企業との連携による人材育成支援策の拡充、子供たちの体験会の継続
- ガイド間の交流

E班 | 人材確保・育成

- 地域での人材育成、ガイドを生業とできる仕組みづくり
- 3村外の方への情報発信の強化やボランティアへの参加促進
- 若者や子供たちのコミュニティへの参加機会の拡充
- 地域ぐるみでの人材育成・シェア、働き場所、帰る場所の創出
- 辺土名高校との連携や地域事業者同士の連携の強化
- 地域の計画を自ら作り、担うことやそのためのスキルアップ



06. 第3回ワークショップの概要

①これまでの取組報告（第2回ワークショップ振り返り、第3回作業部会報告）

②意見交換

- ・やんばる地域の魅力向上を通じて目指す、「やんばるの姿（将来像）」について
- ・将来像を実現するために必要な「具体的取組み」について

【意見交換】

前半は、「やんばる地域の魅力向上を通じて目指す、やんばるの姿（将来像）」をキャッチフレーズとしてまとめ、後半では、自らが関わる立場、やんばる住民としての立場から「やんばるの将来像」を実現するための具体的取組へ向けてのアイデアを出し合い、短期・中期・長期の「時間軸」の視点と、誰が主体的に取組むのが良いかという視点から整理しました。ここでは、将来像を実現するための役割分担やその内容を考えると共に、自らできる事や学校、地域でできること、すぐにもできることに対する気づきもありました。

■ A班陸と海の生物を守り 次世代へ誇れる いつまでも共に暮らせる 魅力あるやんばる

■ B班「結いマール」の心で助け合いながら暮らし続けられる やんばる

■ C班ないものがすべてある やんばる・みんなが幸せに歩ける やんばる

■ D班自然と人々が紡いできた魅力を見つめ直す やんばる

●やんばるの将来像（案）●

※ワークショップ後に、A班からD班の4班から出された「やんばるの将来像」を事務局で整理しました

” 人と自然 多様な生命を紡ぎ・育みながら みんなで共に暮らし続けたいやんばる ”

やんばるは、独自の自然環境と多くの固有種を含む生物多様性を有しており、山と海が人々の暮らしと密接につながり、人と自然が共生する歴史や文化を形成してきました。今後も、引き続き、やんばるの自然や人々の暮らしを守り、次世代へとつなぐためには、持続可能な環境や文化を継承する仕組みを整えることが必要です。

やんばるは、地域の魅力を大切にしながら、共に助け合い、未来へ向けて共生し続けることを目指します。

●やんばるの将来像を実現するために●

主体	短期	中期	長期
行政 (3村)	■ やんばるの魅力を伝える ■ 子供が地域を知る・体感する機会を設ける ■ 地価の高騰、外国資本の流入を防ぐ仕組みづくり ■ 住環境の整備 ■ 来訪者ニーズ調査 ■ 新種への対策	■ 外の人が魅力に思うことを地域に知ってもらう ■ 仕事づくり(地域資源を活用する工夫) ■ 若者の場を提供する ■ 民間事業者活性化を政策 ■ 昔の知恵、林の生業(技術)、生きた話を記録・記憶 ■ 語り部案内人の育成 ■ 外来種植物をなくす ■ 空き家の活用 ■ 子育て環境を整える ■ 地元の伝説を語る場づくり ■ 魅力探しの仕組みづくり	■ やんばる3村の役場の協調 ■ 村史・字史のデジタル化 ■ 沖縄本島全体でのマングース対策
住民	■ ごみの分別廃棄 ■ ごみを捨てない ■ 落ちてるごみを拾う ■ アイドリングストップ ■ 野猫にエサを与えない ■ 大人は継続的に、それぞれの業種や立場でやんばるの自然や文化とつながりを持つ ■ 子供は中学校卒業又は成人を迎えるまでに地域の魅力を知る・発見する・体感する機会をたくさん持つ ■ 若者が自然保全のバトロール実施	■ 守りたい気持ちを持った仲間を増やす ■ 地域の若者が働く場を作り出す ■ 動物を見守る ■ 元気に長く粘り強く働く ■ 地域の大人も楽しく地元の事を学べる場・機会づくり ■ 地域の人が地域のことを伝える取組	■ シビックプライド ■ 地域の誇りこそ資源 ■ 人材を持って資源となす
学校	■ 希少生物保護の募金活動 ■ 子供たちに自然体験 ■ 地域にある植物や生き物について学ぶ ■ 密猟を通報する ■ ハブはひきこらす ■ 地元事業所との就職マッチング ■ 観光教育、総合的な探求学習(小・中・高) ■ 地域学のテキストづくり	■ ベーバーレス化(環境負荷軽減) ■ 幼～高校までの地域の自然・文化・歴史を体験的に学ぶカリキュラム(地域の人がガイドする、研究者等に講師を担ってもらう)	
地域事業者ガイド 観光客風の人等	■ ごみを減らす ■ 自然保護のためのボランティア活動 ■ キャンプグッズを捨てない ■ やんばるビジョン(将来像)の共有と役割分担の明確化 ■ 地域食材の生産 ■ 地域産物を活かしたメニュー作り ■ 地域産品を利用した店の紹介 ■ ルール決め ■ 民間も行政も自分事して捉える外来種駆除 ■ 暮らしの中にあるやんばるの自然の楽しさを知る(教育普及啓発、大人の意識改革) ■ エコツーリズム関係者が一堂に集まる体制をつくる(3村)	■ 自然の遊び方を知ってもらう ■ 風の人ややんばるのビジョンに関わる仕組みの確立 ■ 地域産物を活かした食事の提供 ■ 農林水産物を活かした土産品作り	■ 森林伐採を減らす ■ 全住民が関わり合う仕組みを創出する(例:やんばる運営会社→全住民が出資、共同売店の後身) ■ 時代とともに変化する問題にすぐ対応できる仕組みづくり

凡例 ■ A班 ■ B班 ■ C班 ■ D班

参考資料6 | 民間事業者ヒアリング

① 民間事業者ヒアリングの実施概要

民間事業者から民間ならではの意見・提案をいただくことで、官民連携による実効性・実現性のある取組内容等の構築をすることを目的に、民間事業者に対してヒアリングを実施しました。

実施時期	令和6年12月～令和7年2月
ヒアリング形式	対面もしくはオンライン会議形式にてヒアリング
ヒアリング先	・ 県内外の幅広い業種の事業者、計16社 （アウトドア関連事業者、宿泊施設開発事業者・運営事業者、交通事業者、幅広い業種の民間事業者・団体等）
主なヒアリング項目	・ 基本構想案全般に関する意見・提案 ・ 特に、自然環境保全と再投資の仕組みづくりに関する意見・提案等 ・ 特に、国立公園ならではの感動体験を提供する利用拠点の方向性及び候補地に関する意見・提案・課題 等 ・ 本事業への参画可能性に関する意見・提案、参画における課題・条件等 ・ 推進枠組み、実施体制等への意見・提案 ・ その他、やんばる国立公園や本事業に対する意見・提案・課題 等

② 基本構想（案）への意見・提案の反映

民間事業者からの意見・提案を受け、以下の事項について基本構想へ反映しました。

ヒアリング項目	意見・提案を受け、基本構想へ反映を行った事項
やんばるの価値・魅力を来訪者へ伝える取組に関する意見・提案	・ やんばるならではの経験、象徴、ストーリーの重要性、来訪者に望まれる経験や来訪者像についての視点 ・ やんばるならではの魅力を伝えるガイドの育成の必要性 ・ 環境学習・教育の機会提供 ・ 世界自然遺産の認知度向上について
自然環境の保全と再投資の仕組みづくりに関する意見・提案	・ 再投資先としてガイド等の「人材」へも還元 ・ 再投資先について、使い道や方向性を具体的に定めるという視点
滞在体験の魅力向上による地域づくり・地域社会への貢献に関する意見・提案	・ 連携拠点の考え方を整理

国立公園ならではの感動体験を提供する利用拠点の方向性に関する意見・提案	・ やんばる3村が連携し効果的な面的取組を推進し、エリア内で各機能を持つ拠点が連携することを位置付け
利用拠点候補地に関する意見・提案・課題	・ この場所に宿泊することでしか体験できない魅力的な体験についての視点
利用拠点を核とした3村連携（国立公園外も含めた既存施設との連携）に関する意見・提案	・ 面的な魅力向上・連携において、交通アクセスは大きな課題という視点
周辺地域との連携に関する意見・提案	・ 周辺地域との「人材育成」に関する連携の視点
推進枠組み、実施体制等への意見・提案	・ 住民の関わりの重要性についての位置付け
効果的な情報発信方策への意見・提案	・ 特になし
その他、基本構想（案）に対する意見・提案	・ 魅力の一つとして「地域の伝統的な工芸（芭蕉布など）」 ・ 周辺地域の開発事業者との連携の視点（開発にあたり基本構想への理解の働きかけ）

やんばる国立公園における滞在体験の魅力向上に向けた基本構想
令和7年6月

発行：やんばる国立公園連絡協議会・環境省沖縄奄美自然環境事務所

リサイクル適性の表示:印刷用の紙にリサイクルできます
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、
印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[Aランク]のみを用いて作製しています。